

7 鈴鹿市の重点取組等に関する【児童生徒質問紙調査】の結果

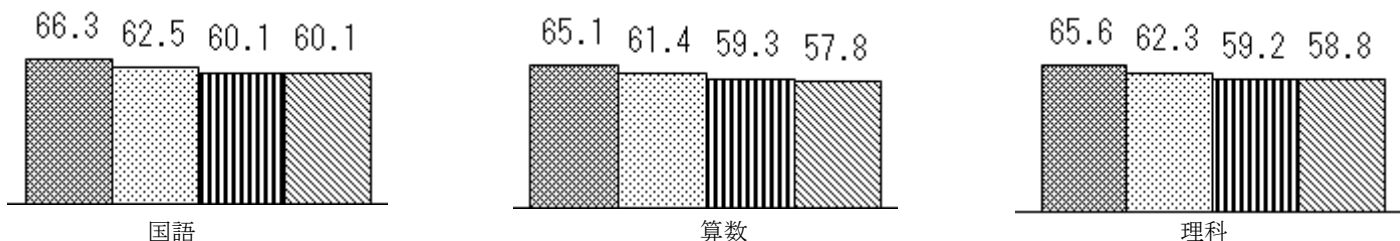
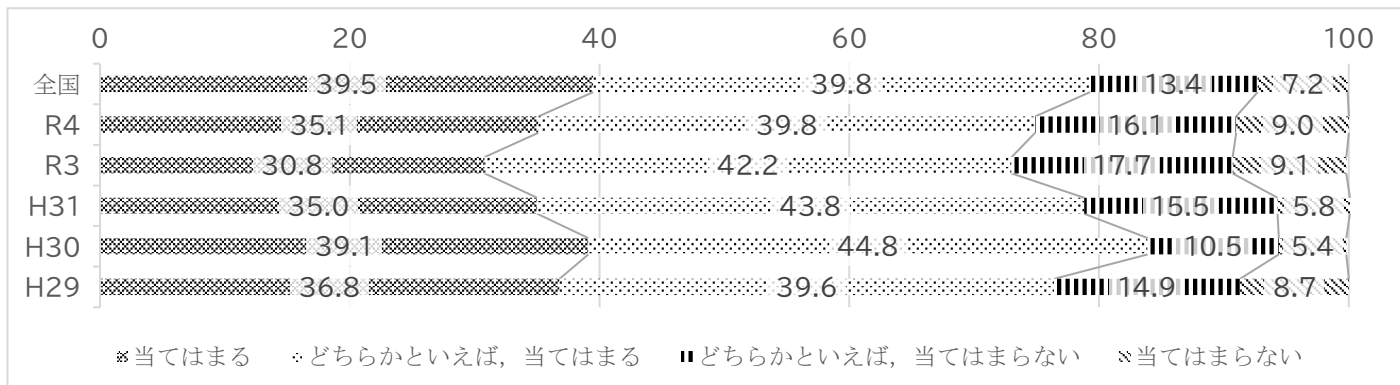
<グラフの見方>

- ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本市の経年の状況を示します。
- ・下段の棒グラフは、質問に対する本市の回答別の平均正答率（R4年度）を示します。
- ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

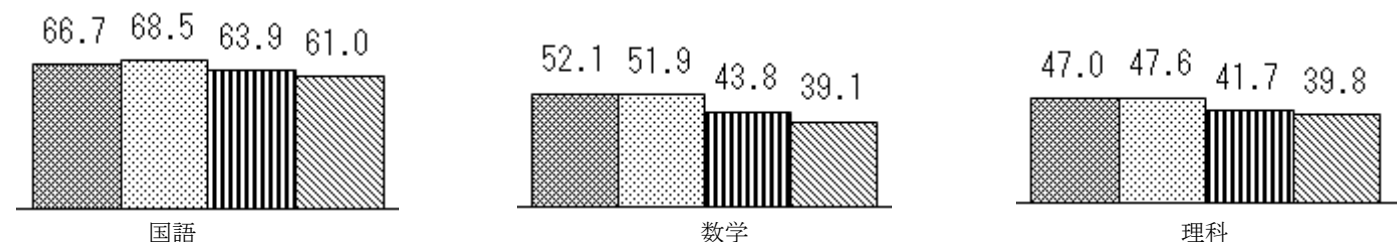
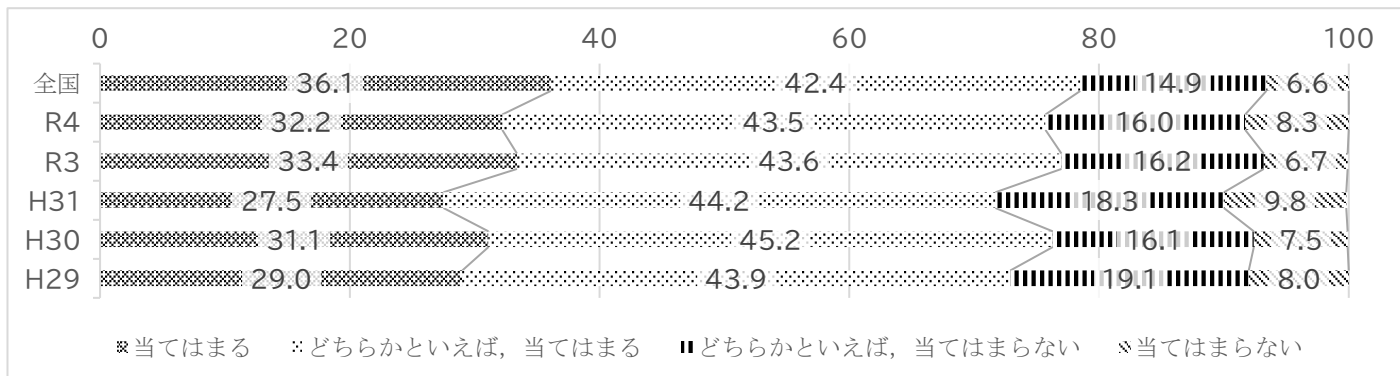
(1)自己肯定感, 挑戦心, 達成感等に関する状況

【児童生徒質問紙】(7)自分には、よいところがあると思いますか

小学生



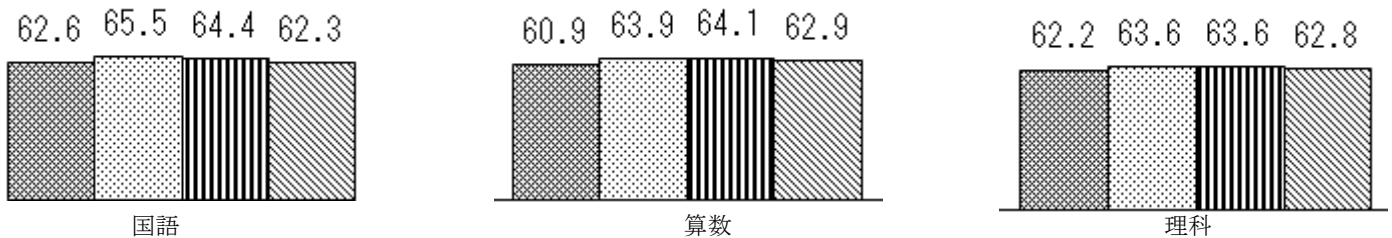
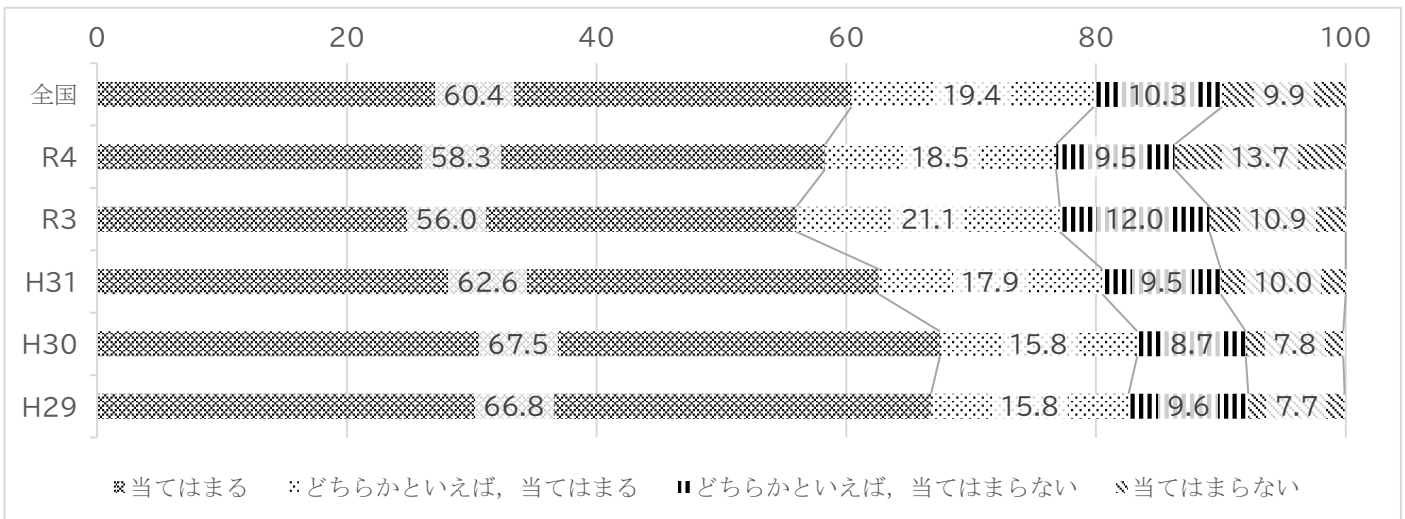
中学生



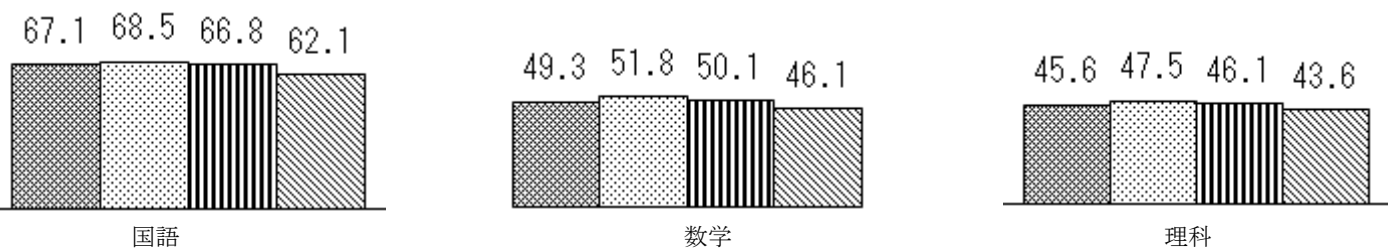
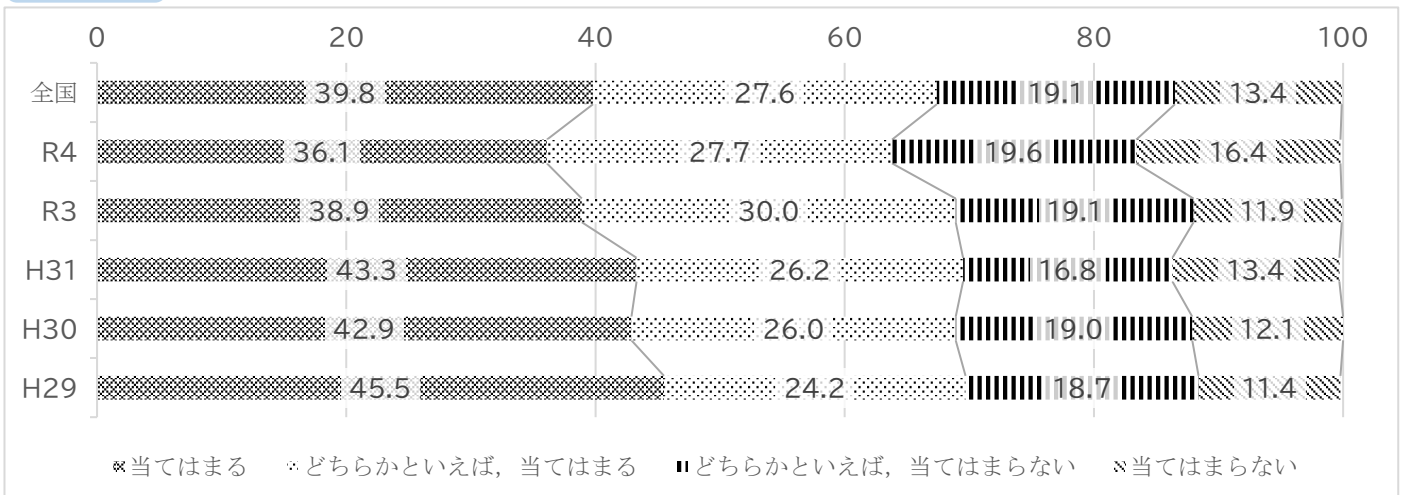
小学生は、肯定的回答割合が74.9%とR3年度の73.0%を上回っているが、全国の79.3%を下回っている。中学生は、肯定的回答割合が75.7%とR3年度の77.0%を下回り、全国の78.5%も下回っている。小中学生ともに自分には、よいところがあると思っている児童生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】 (9)将来の夢や目標を持っていますか

小学生



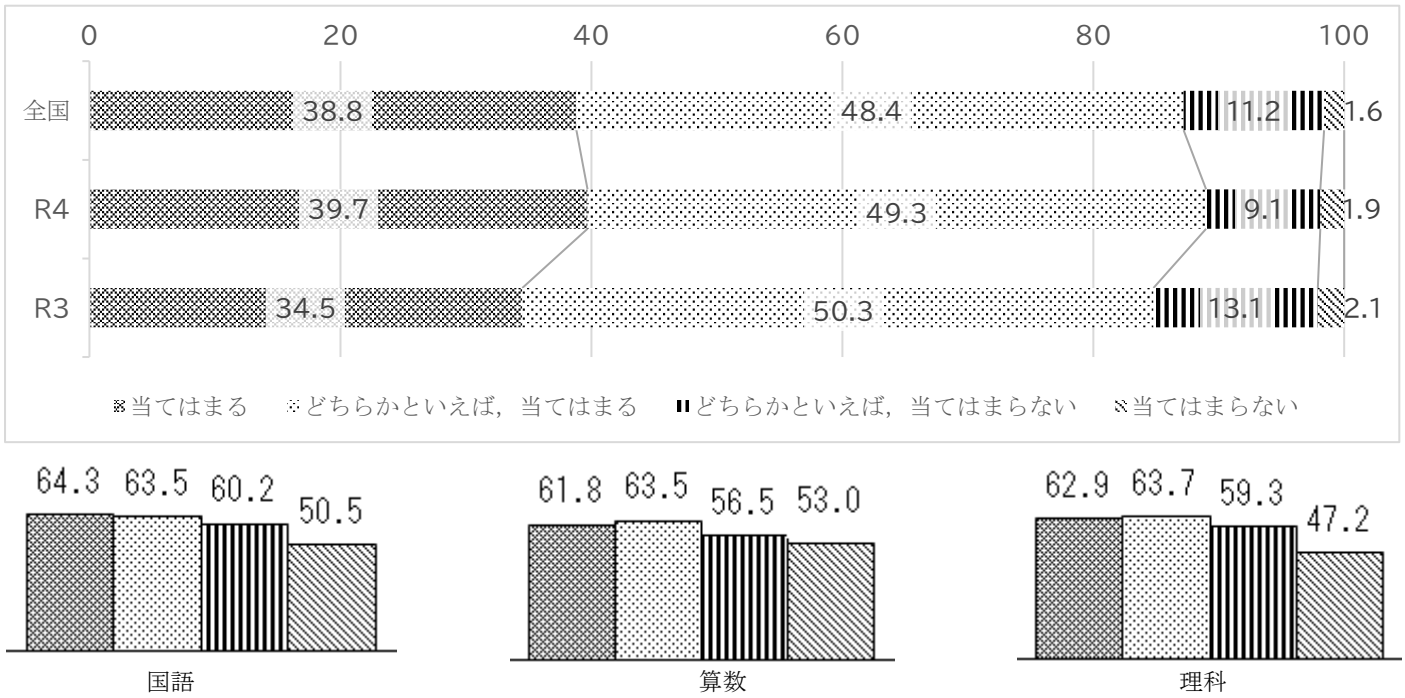
中学生



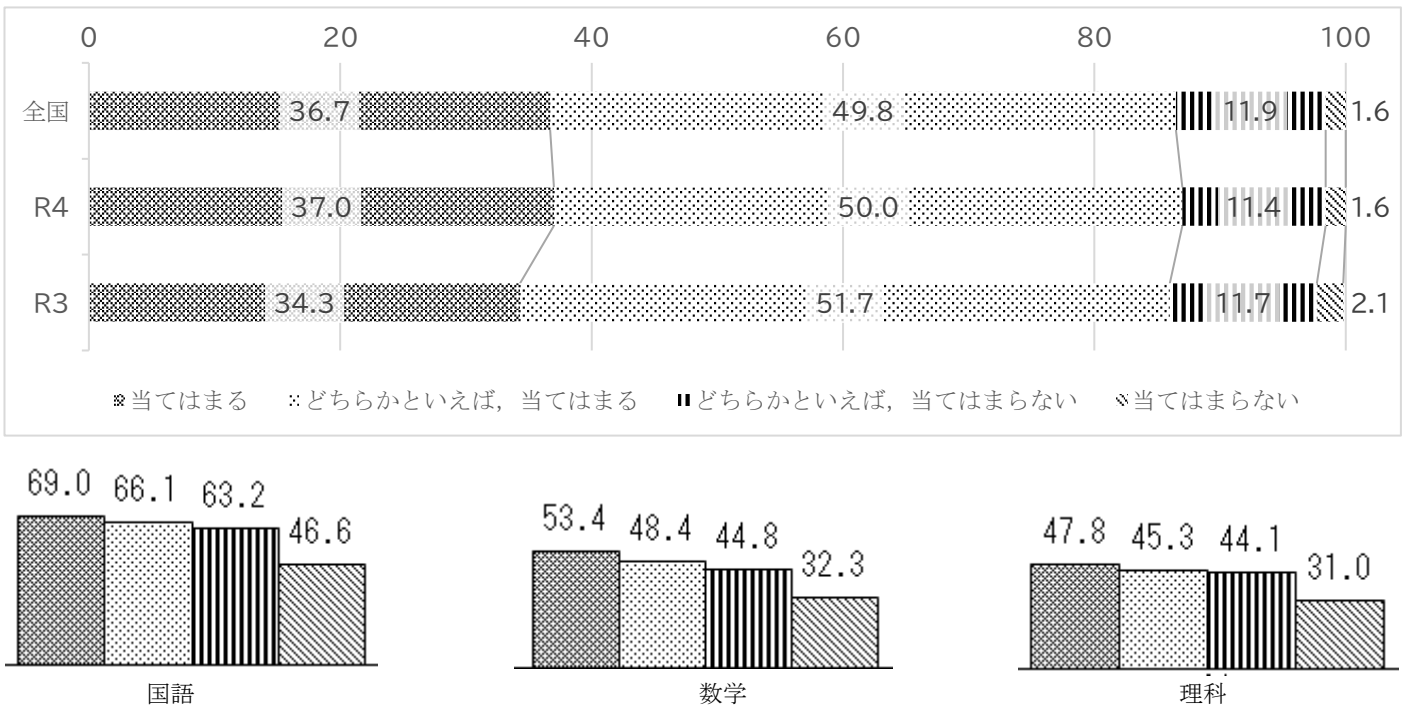
小学生は、肯定的回答割合が76.8%とR3年度の77.1%を下回り、全国の79.8%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が63.8%とR3年度の68.9%を下回り、全国の67.4%も下回っている。小中学生ともに肯定的回答割合が、平成29年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問紙】(10)自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか

小学生



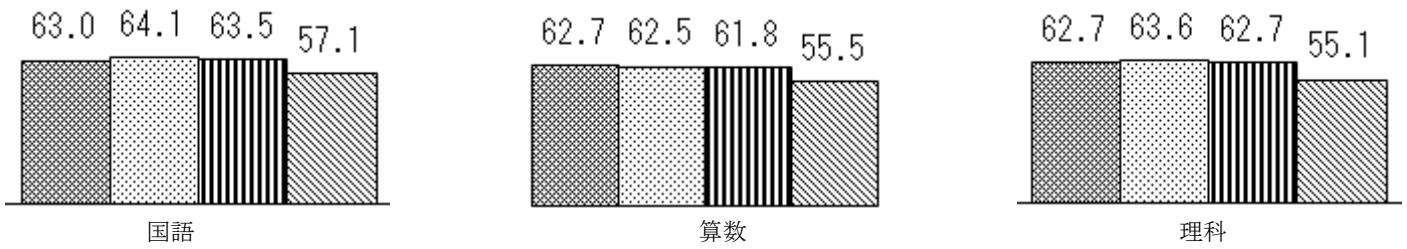
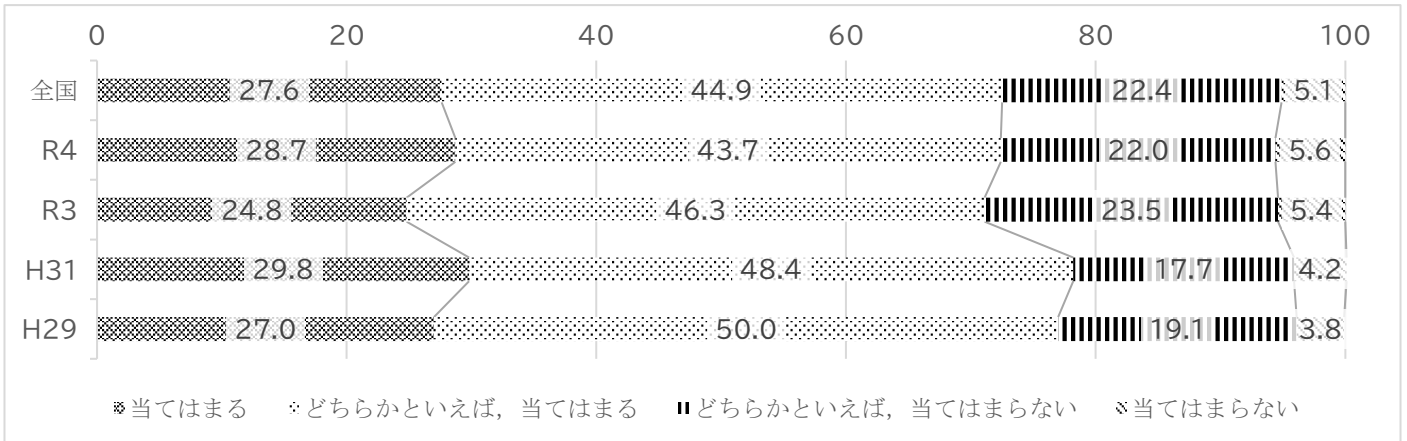
中学生



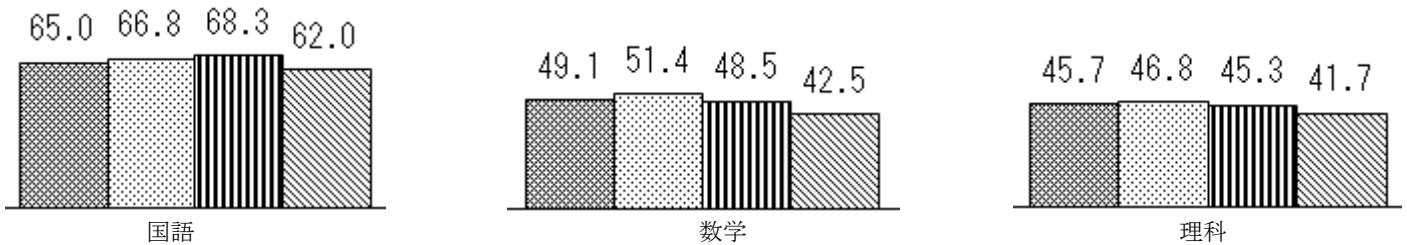
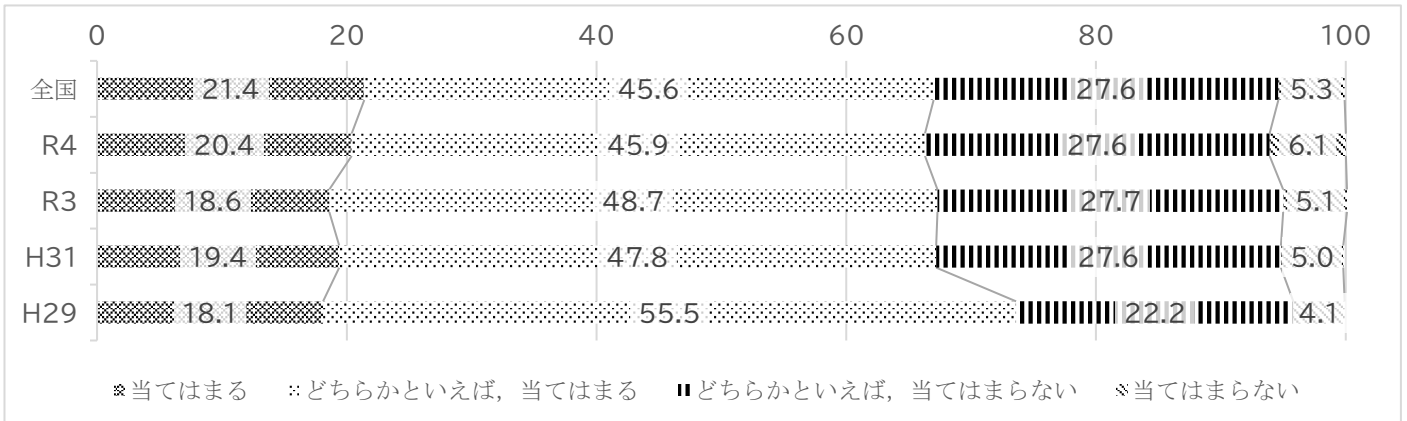
小学生は、肯定的回答割合が89.0%とR3年度の84.8%を上回り、全国の87.2%も上回っている。中学生は、肯定的回答割合が87.0%とR3年度の86.0%を上回り、全国の86.5%も上回っている。小中学生ともに自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】 (11)難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか

小学生



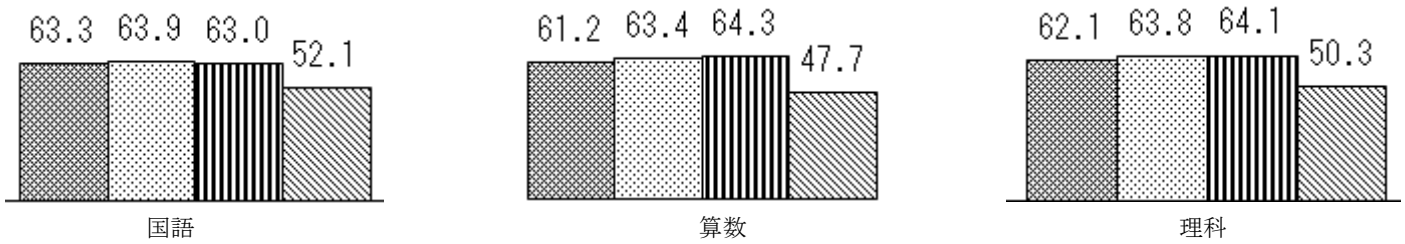
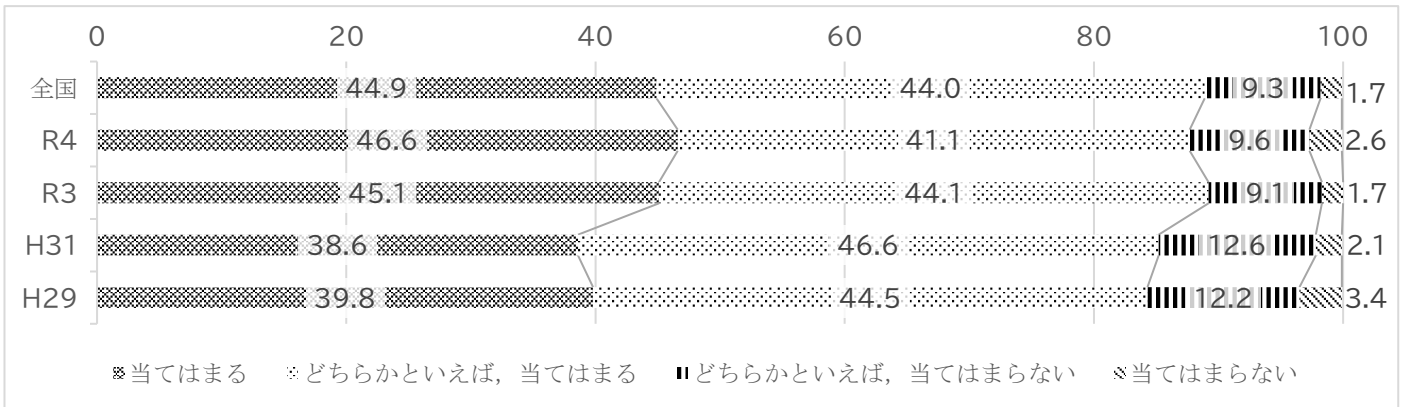
中学生



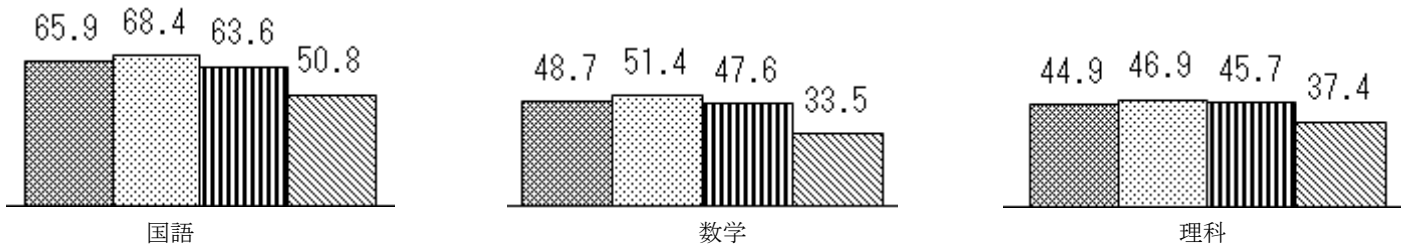
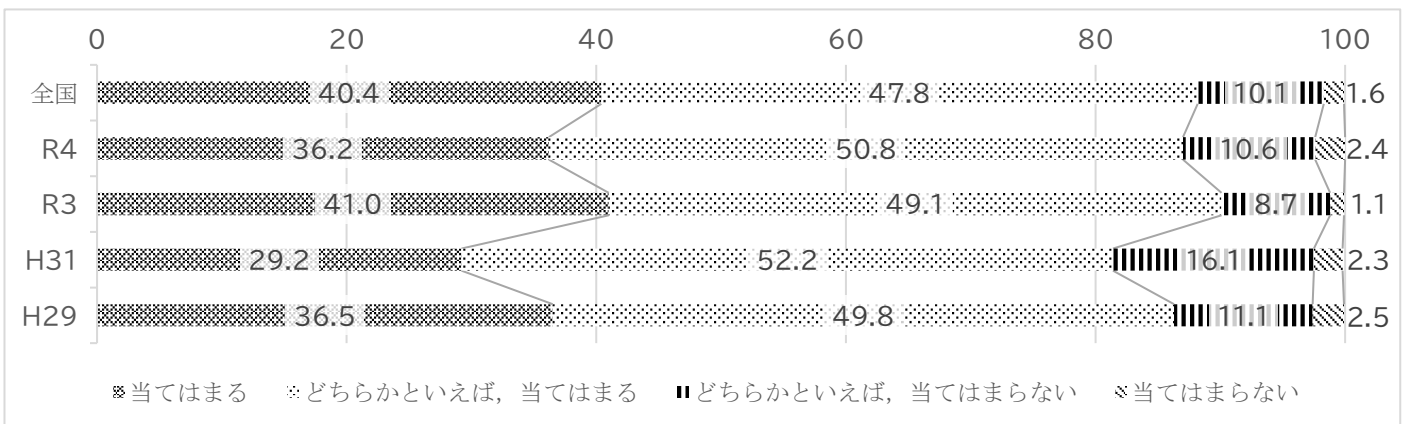
小学生は、肯定的回答割合が72.4%とR3年度の71.1%を上回っている。全国は72.5%となっている。中学生は、肯定的回答割合が66.3%とR3年度の67.3%を下回り、全国の67.0%も下回っている。小学生は、肯定的回答割合がH29年度以降においてR3年度に次いで2番目に低くなっている。中学生は、肯定的回答割合がH29年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問紙】(12)人が困っているときは、進んで助けていますか

小学生



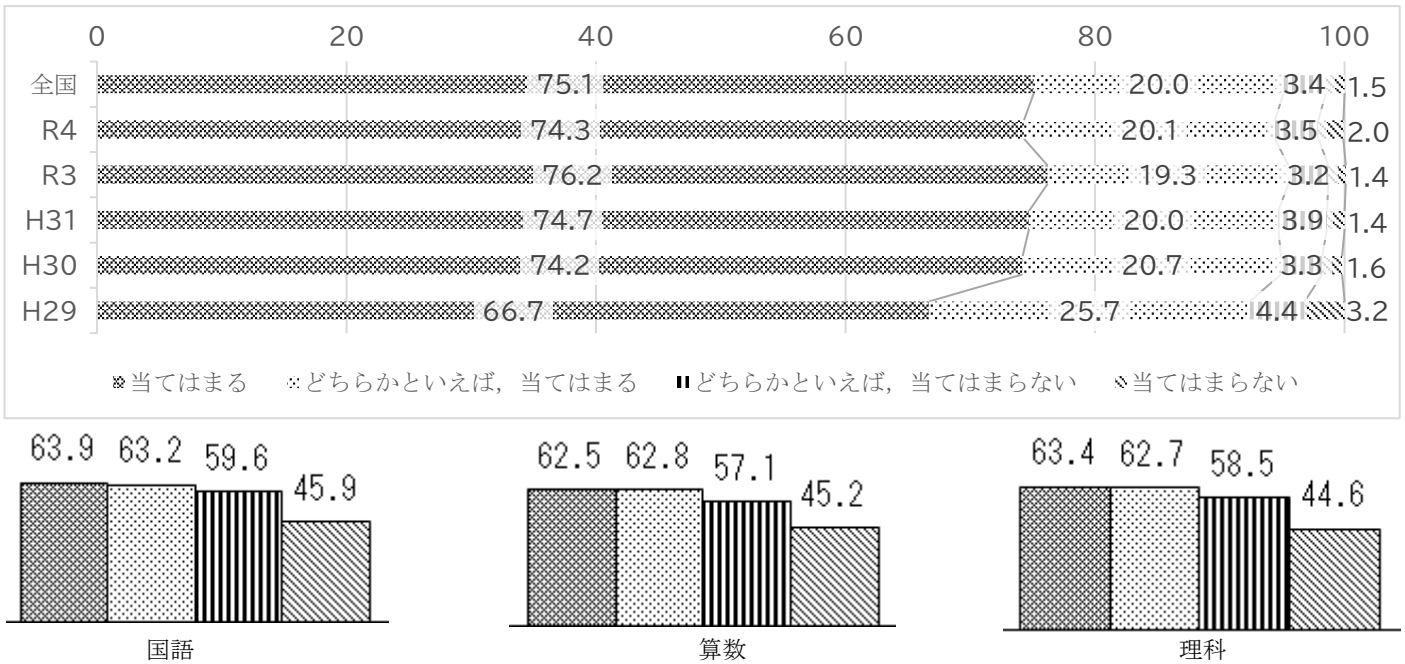
中学生



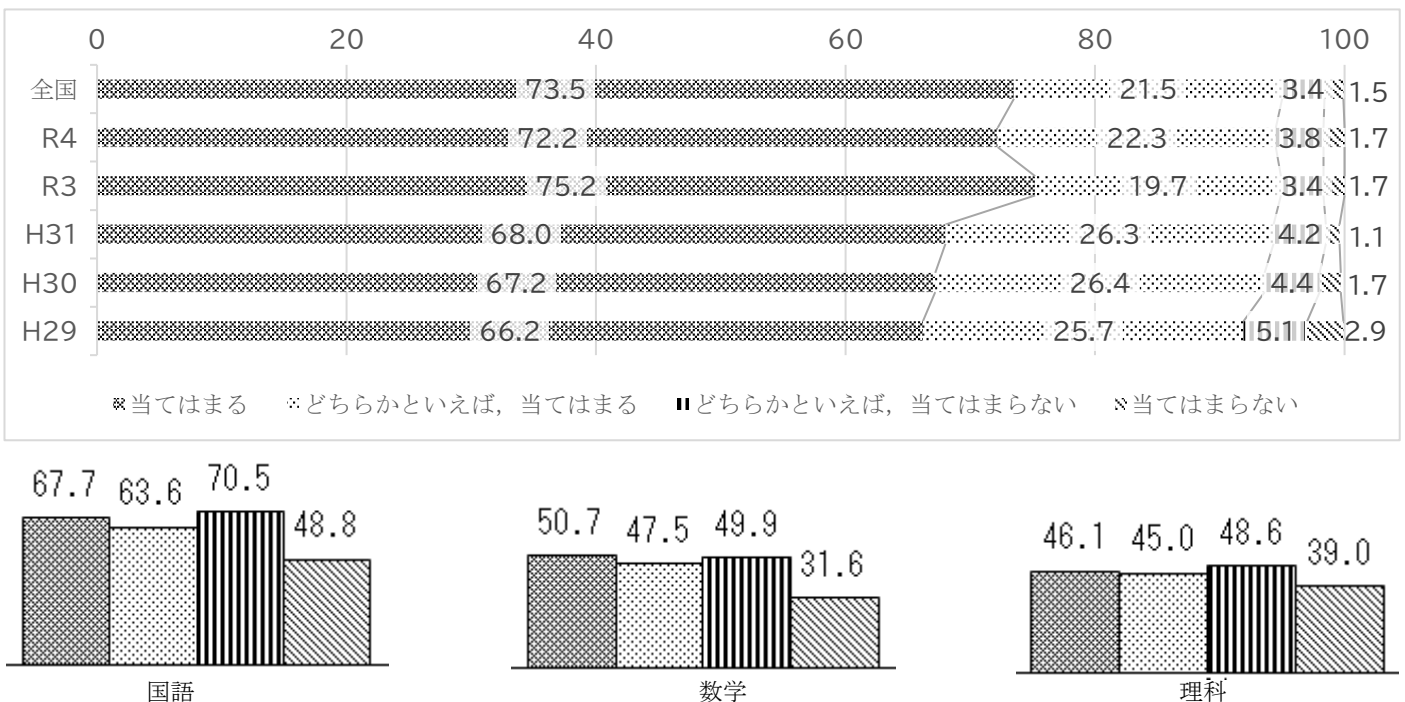
小学生は、肯定的回答割合が87.7%とR3年度の89.2%を下回り、全国の88.9%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が87.0%とR3年度の90.1%を下回り、全国の88.2%も下回っている。

【児童生徒質問紙】(15)人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学生



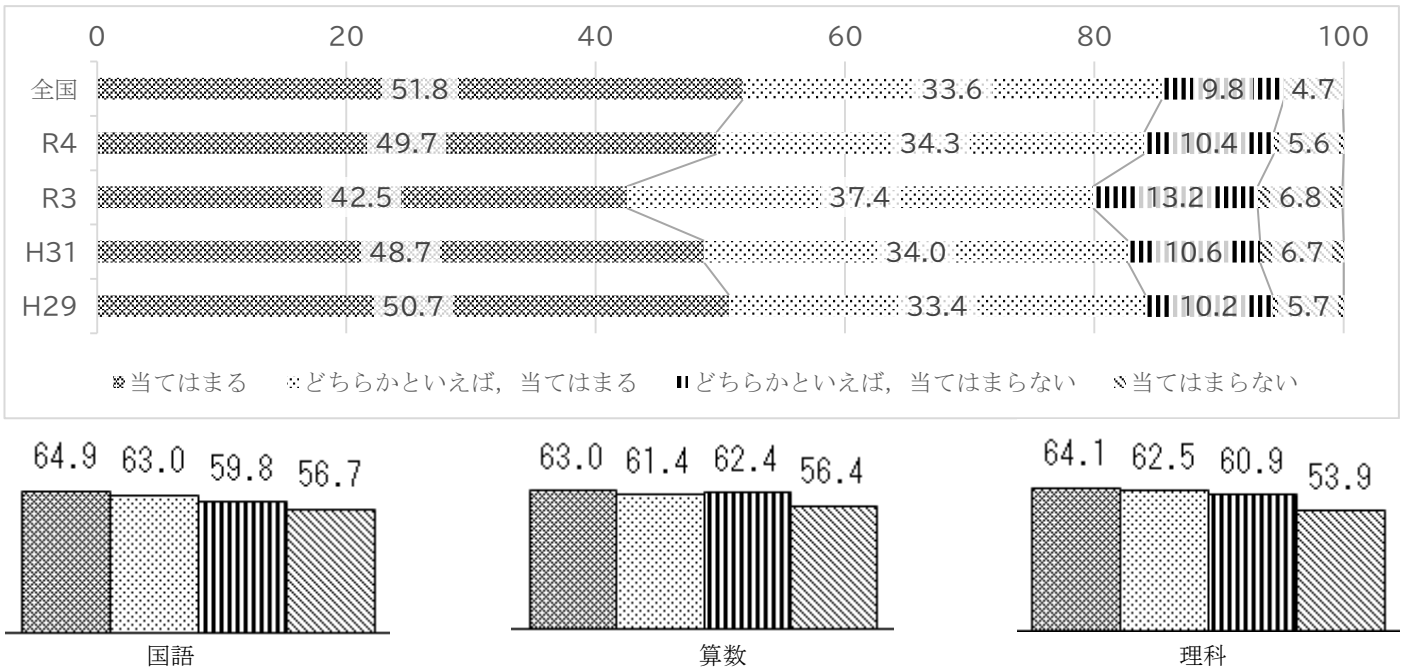
中学生



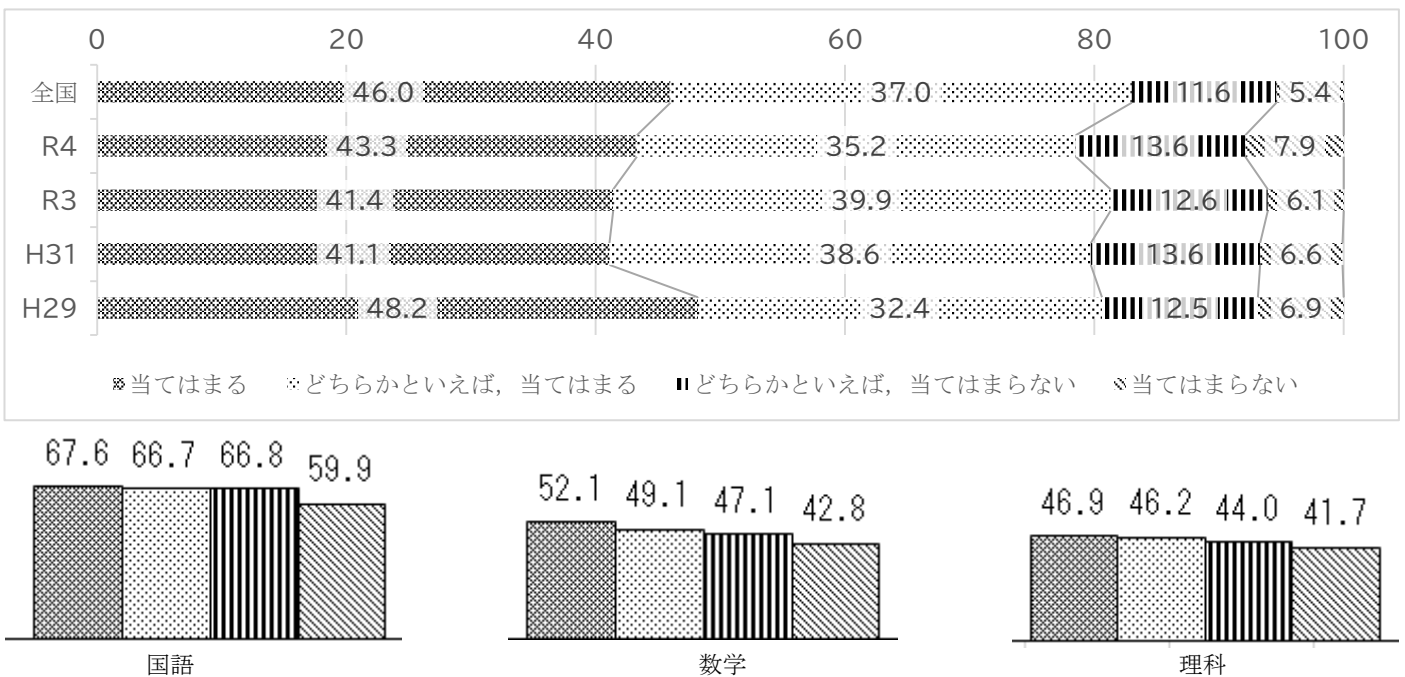
小学生は、肯定的回答割合が94.4%とR3年度の95.5%を下回り、全国の95.1%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が94.5%とR3年度の94.9%を下回り、全国の95.0%も下回っている。小学生は、人の役に立つ人間になりたいと思う児童ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】 (16)学校に行くのは楽しいと思いますか

小学生



中学生

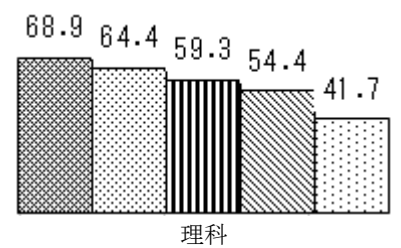
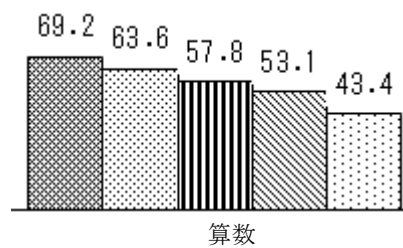
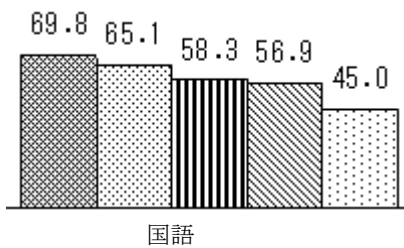
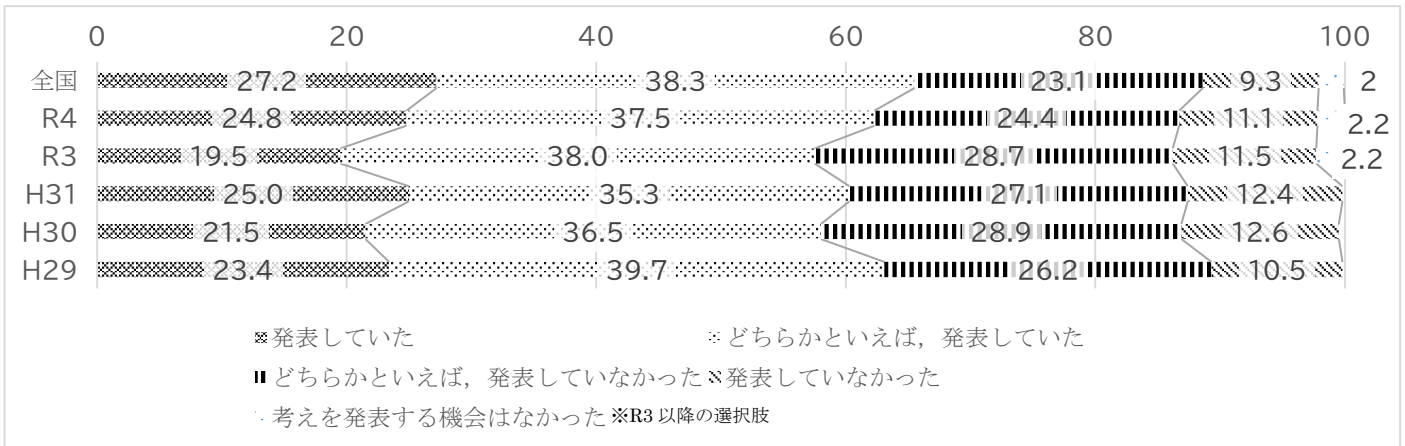


小学生は、肯定的回答割合が84.0%とR3年度の79.9%を上回っているが、全国の85.4%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が78.5%とR3年度の81.3%を下回り、全国の83.0%も下回っている。小中学生ともに学校に行くのは楽しいと思っている児童生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

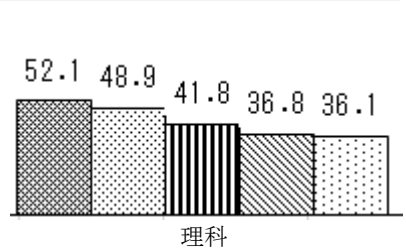
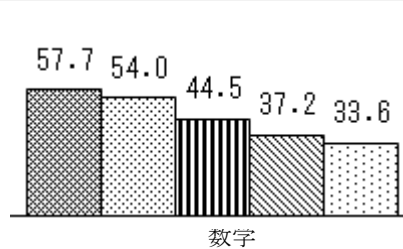
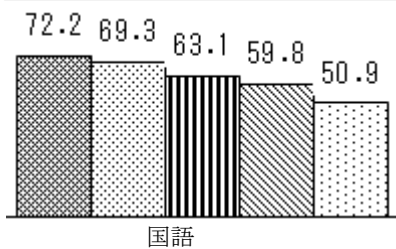
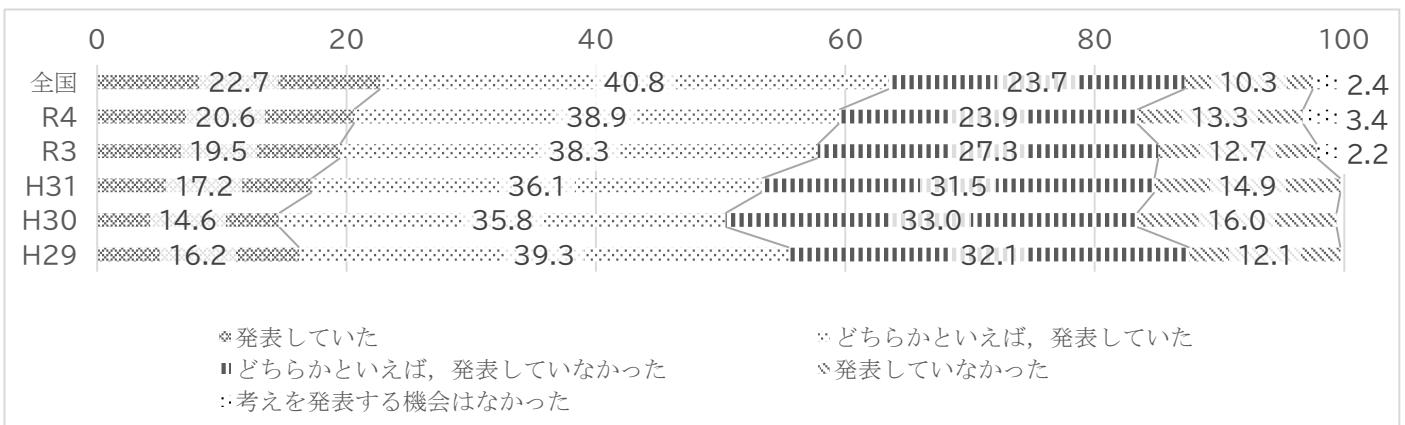
(2)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

【児童生徒質問紙】(38)5年生まで(中学生は1,2年生のとき)に受けた授業で,自分の考えを発表する機会では,自分の考えがうまく伝わるよう,資料や文章,話の組立てなどを工夫して発表していましたか

小学生



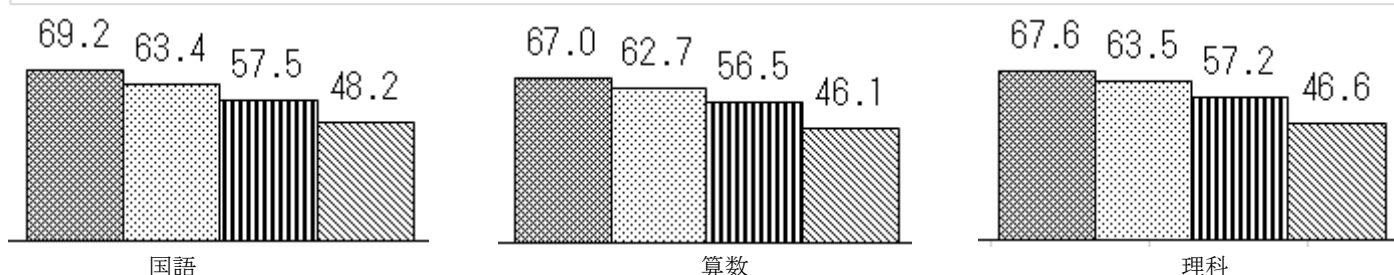
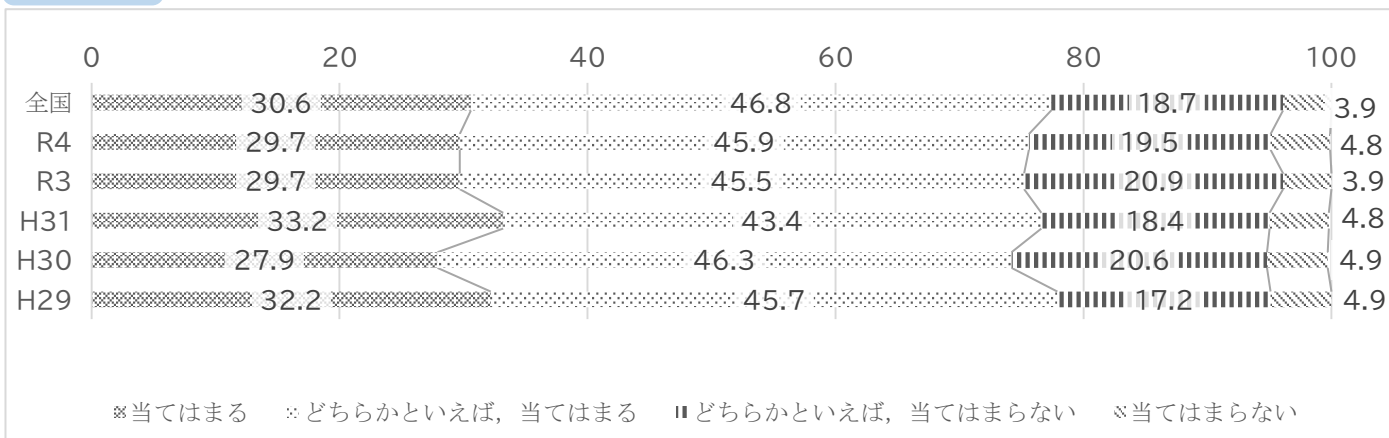
中学生



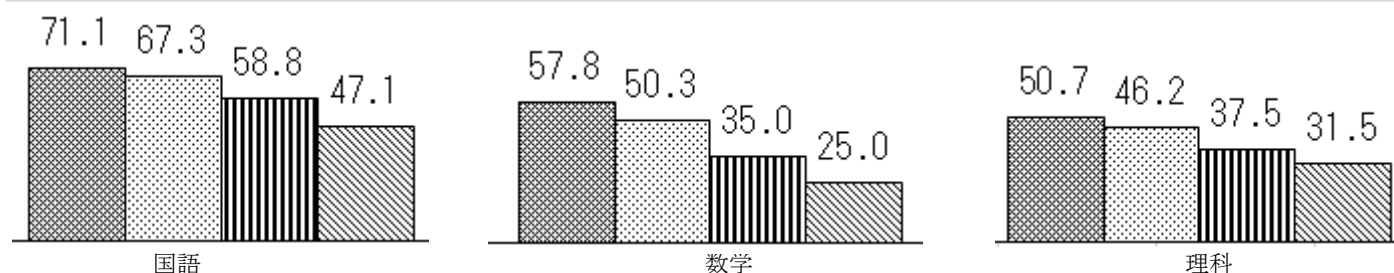
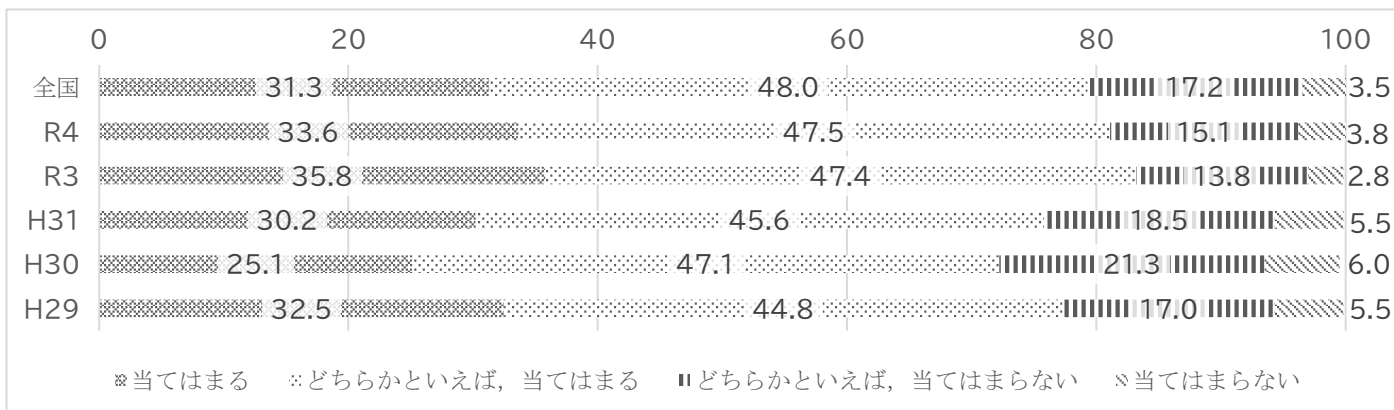
小学生は,肯定的回答割合が62.3%とR3年度の57.5%を上回っているが,全国の65.5%は下回っている。中学生は,肯定的回答割合が59.5%とR3年度の57.8%を上回っているが,全国の63.5%は下回っている。小中学生ともに自分の考えがうまく伝わるよう,資料や文章,話の組立てなどを工夫して発表していた児童生徒ほど,教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】(39)5年生まで(中学生は1,2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学生



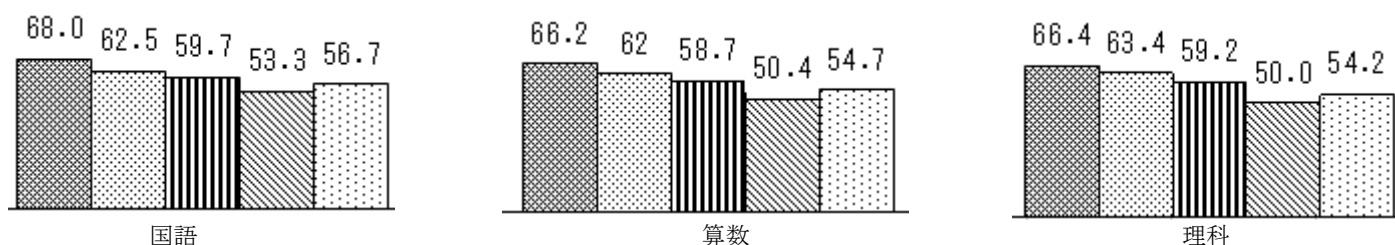
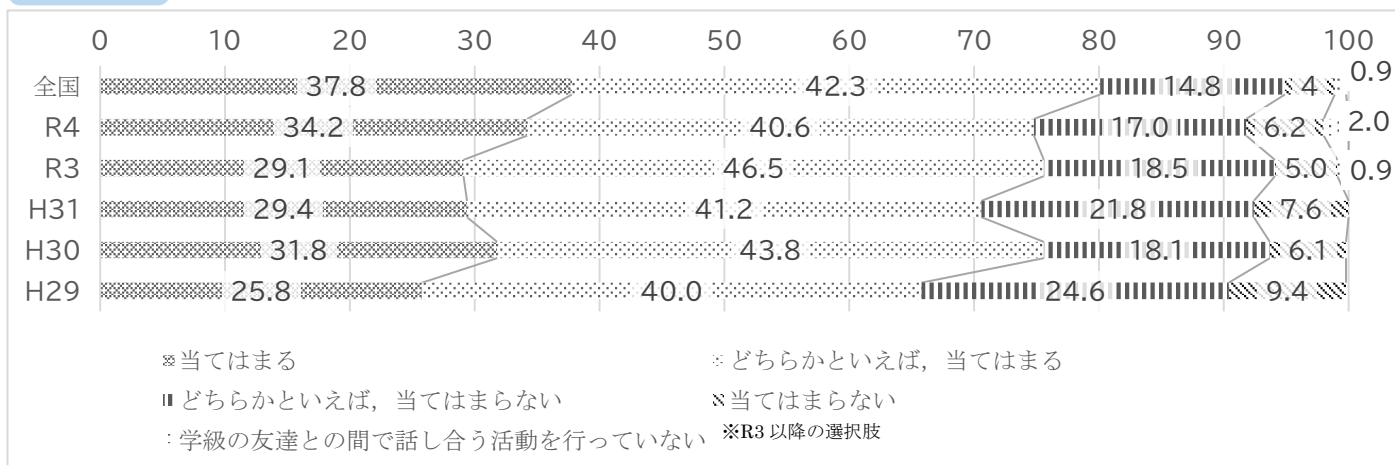
中学生



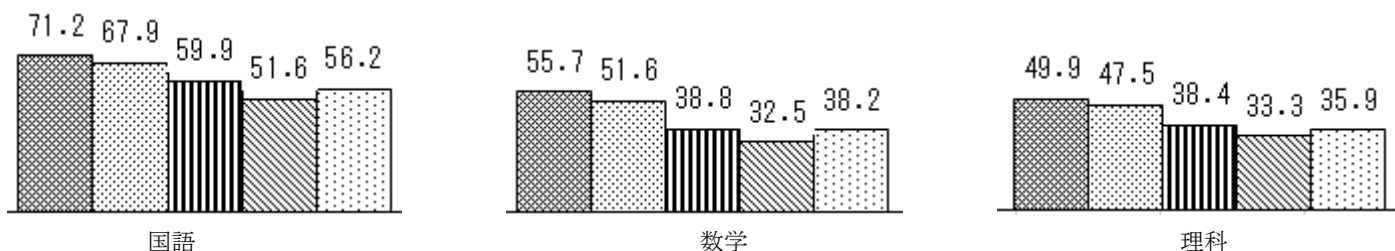
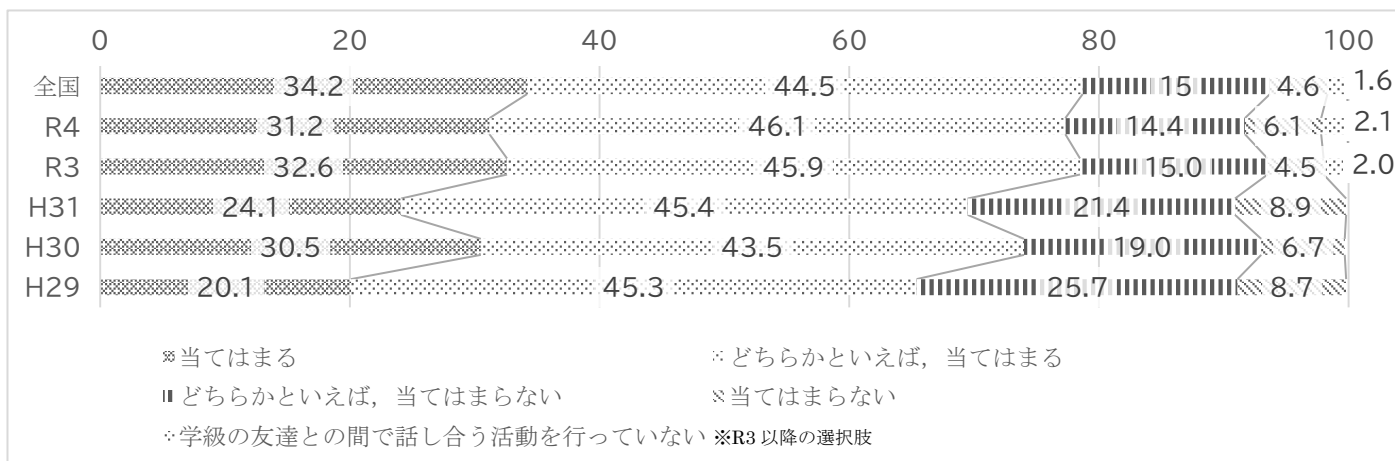
小学生は、肯定的回答割合が75.6%とR3年度の75.2%を上回っているが、全国の77.4%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が81.1%とR3年度の83.2%を下回っているが、全国の79.3%は上回っている。小中学生ともに課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】(43)学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

小学生



中学生

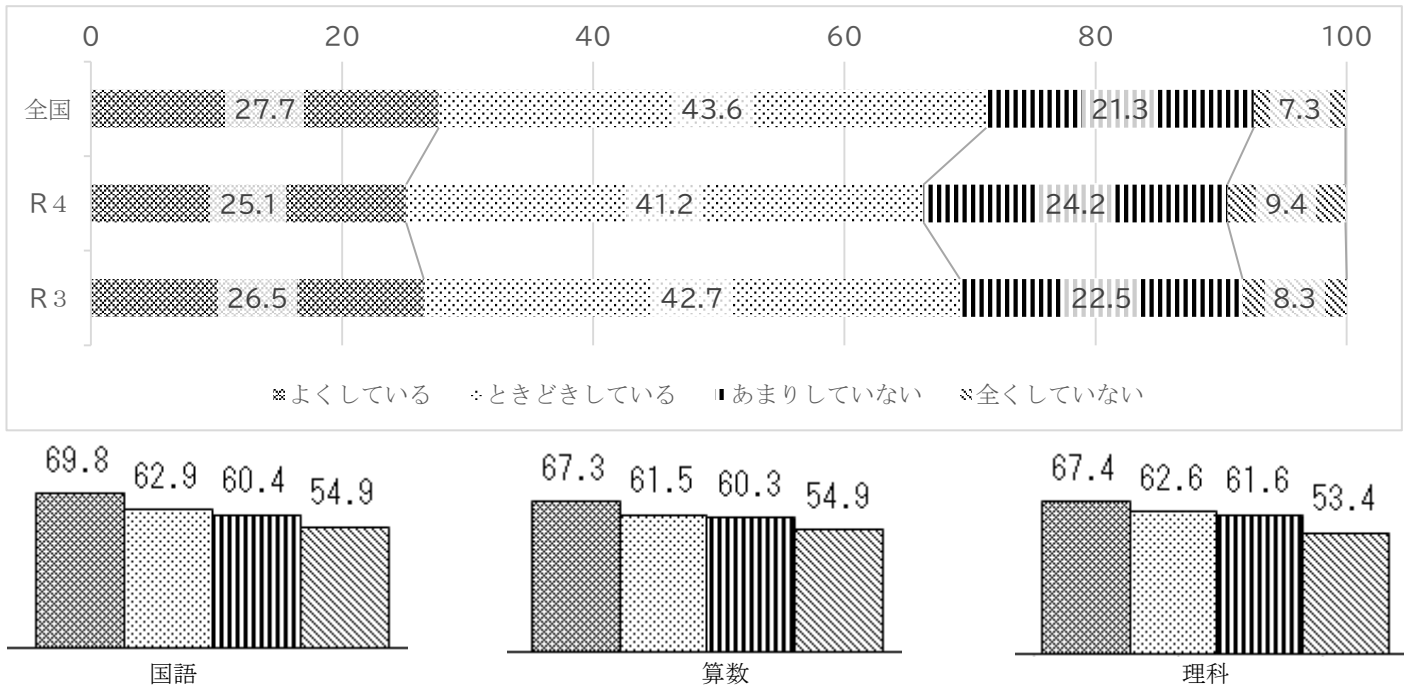


小学生は、肯定的回答割合が74.8%とR3年度の75.6%を下回り、全国の80.1%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が77.3%とR3年度の78.5%を下回り、全国の78.7%も下回っている。小中学生ともに学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

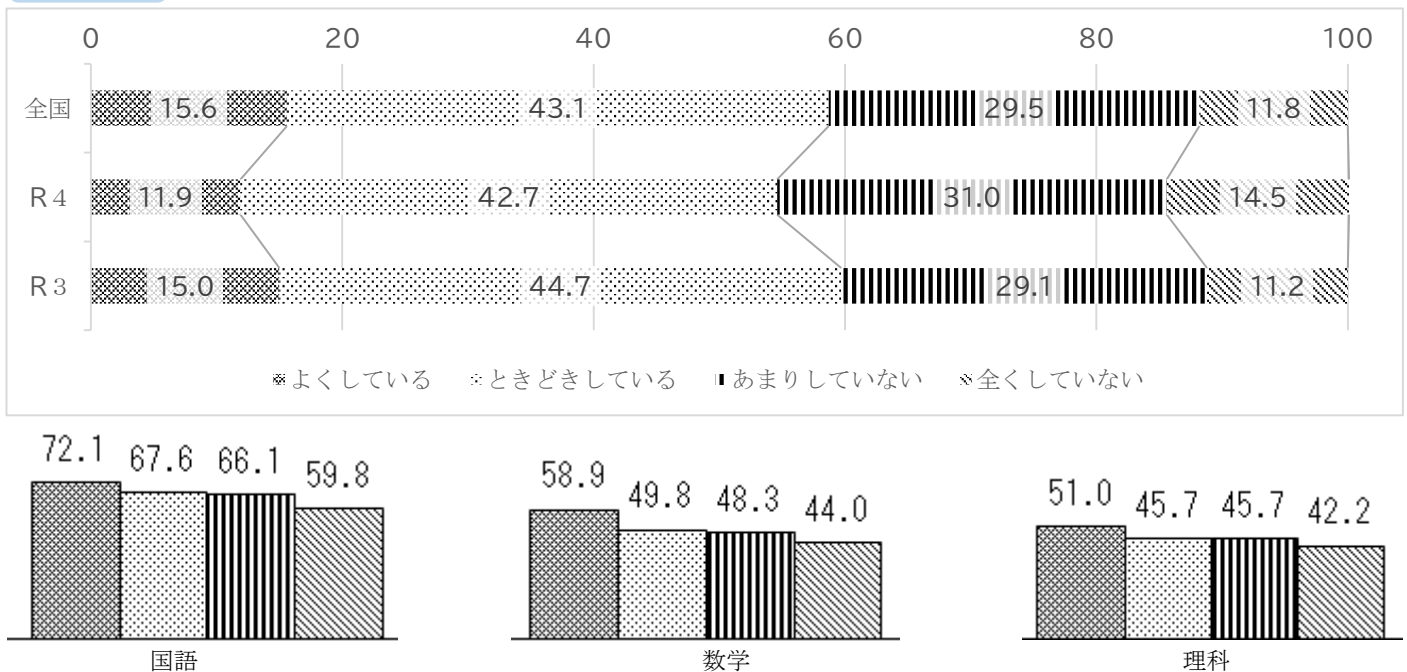
(3)家庭学習, 読書, スクリーンタイムに関する取組状況

【児童生徒質問紙】(20)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

小学生



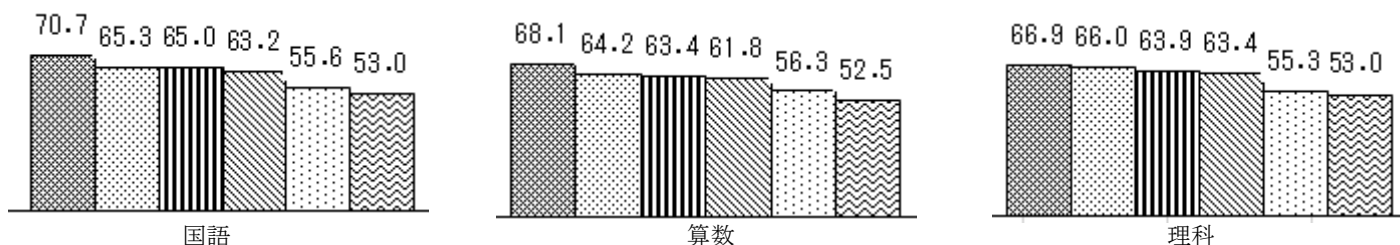
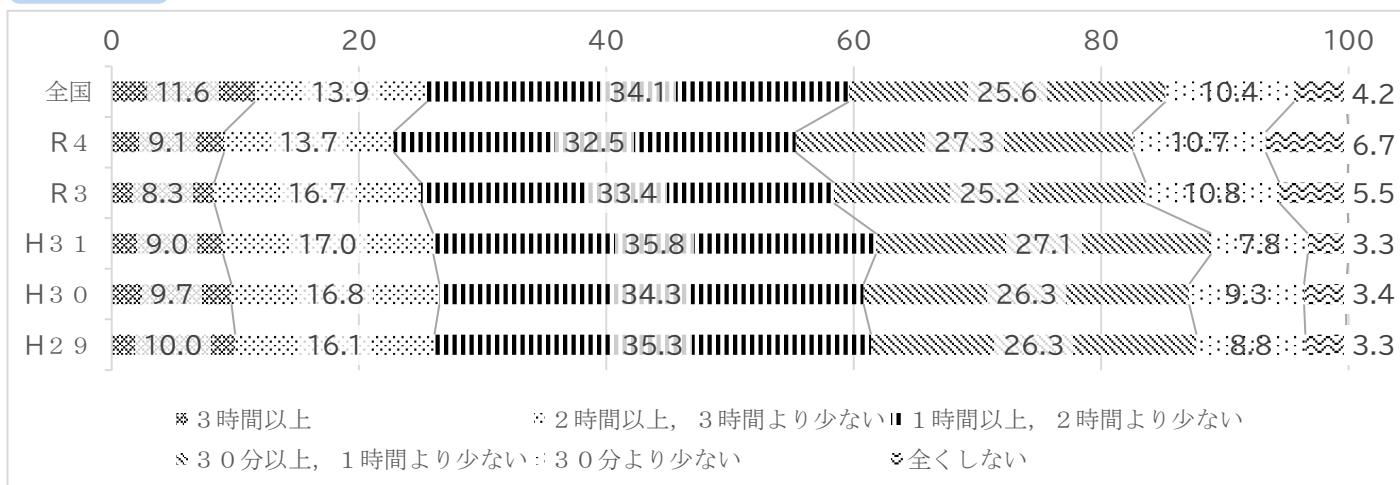
中学生



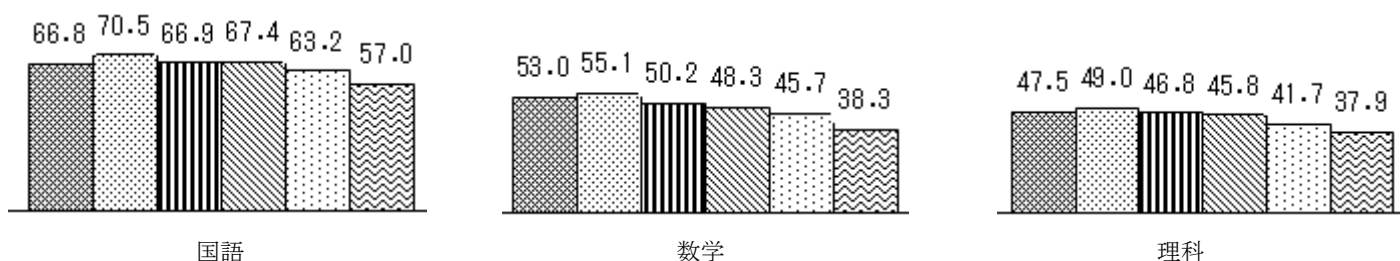
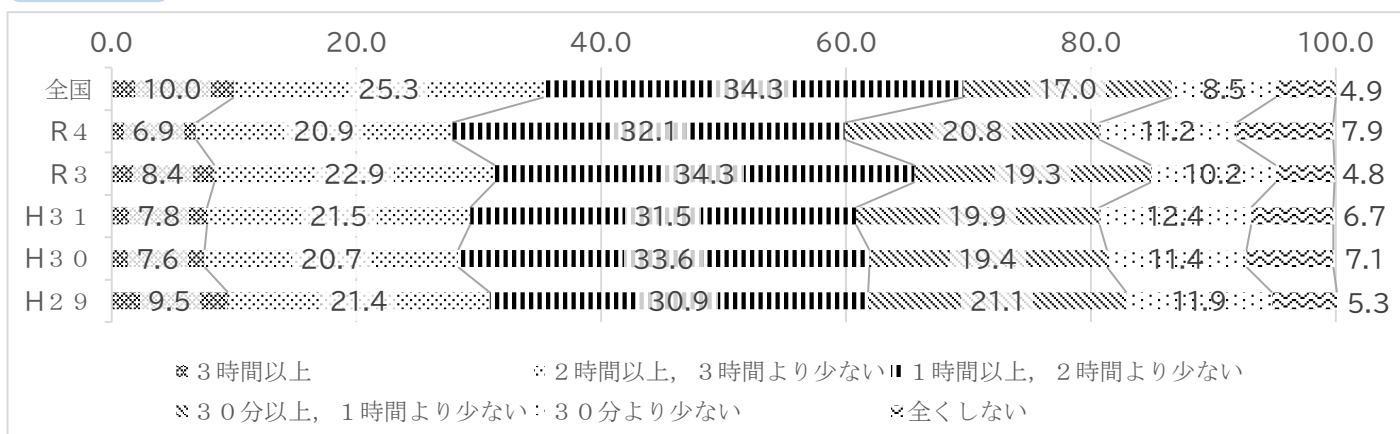
小学生は、肯定的回答割合が66.3%とR3年度の69.2%を下回り、全国の71.3%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が54.6%と、R3年度の59.7%を下回り、全国の58.7%も下回っている。小中学生ともに家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】(21)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学生



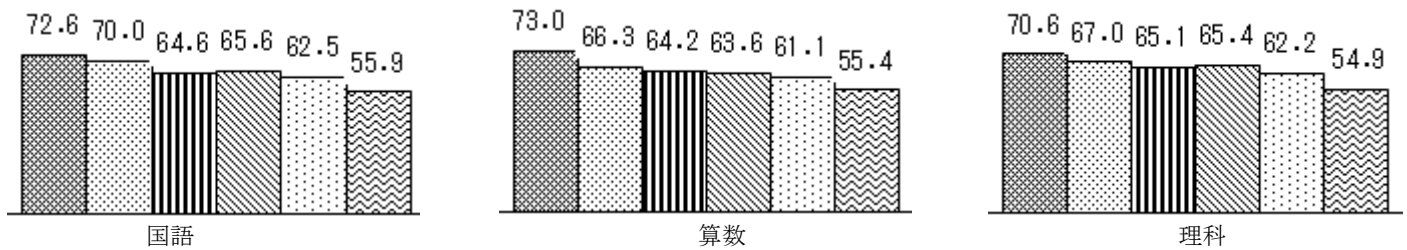
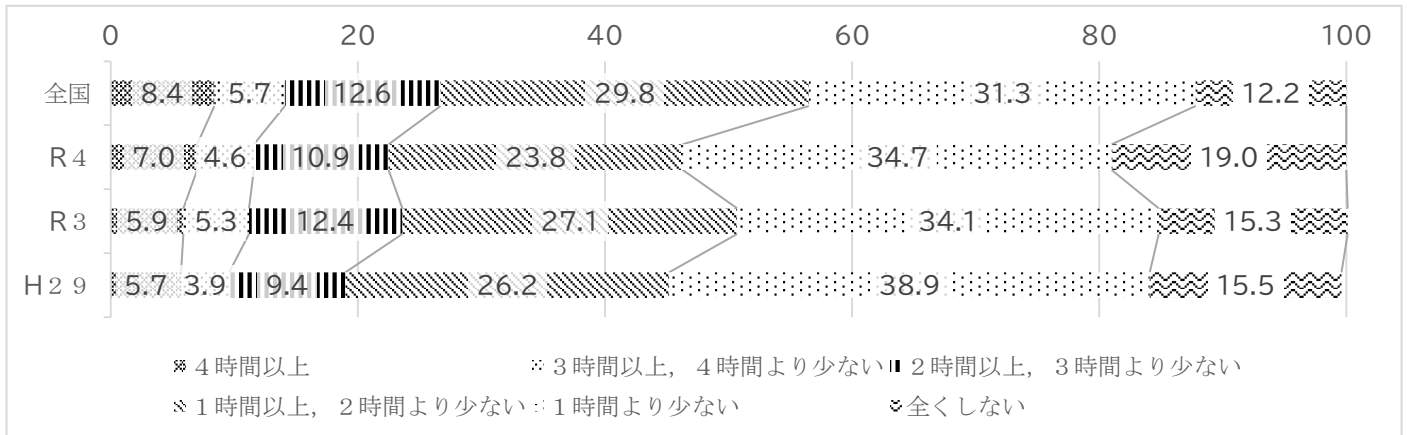
中学生



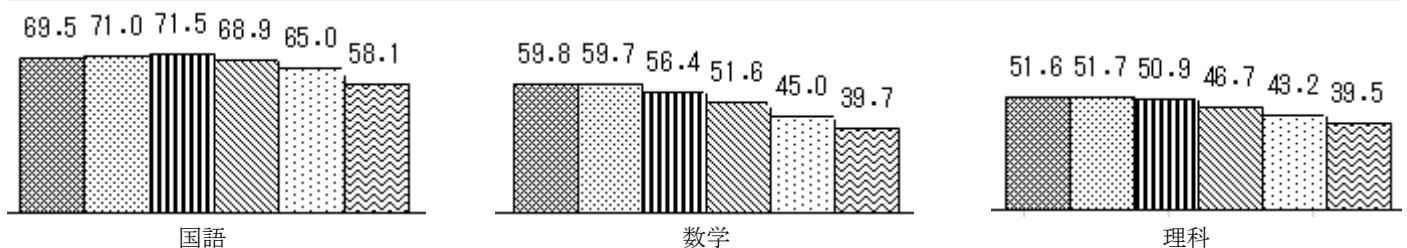
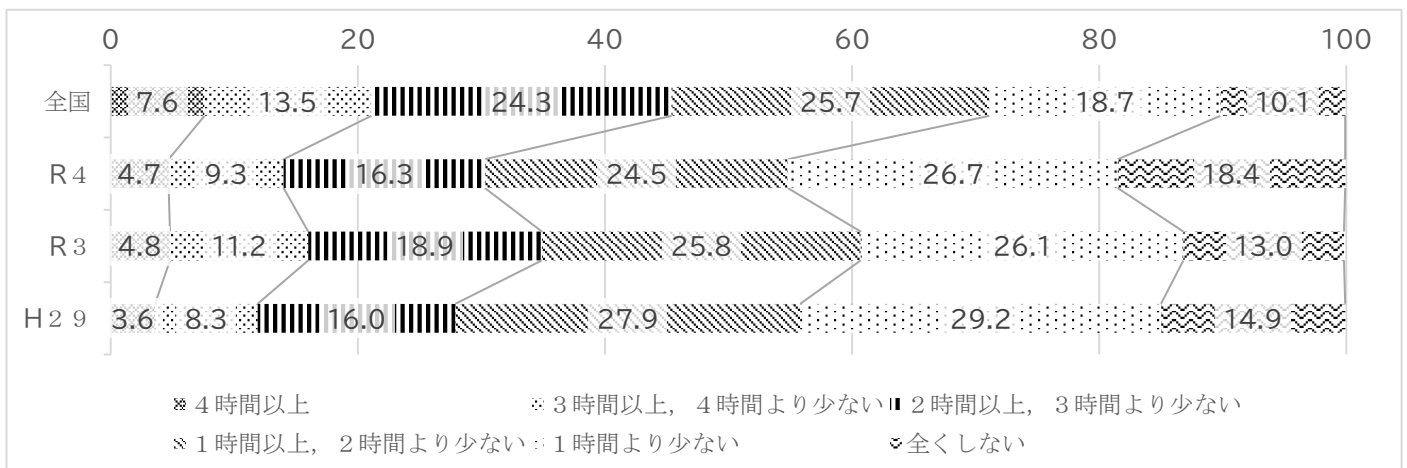
小学生は、「1時間以上」と回答した割合が55.3%とR3年度の58.4%を下回り、全国の59.6%も下回っている。中学生は、「1時間以上」と回答した割合が59.9%とR3年度の65.6%を下回り、全国の69.6%も下回っている。小中学生ともに、学校の授業時間以外に、普段、1日当たりの勉強時間が長い児童生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】(22)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学生



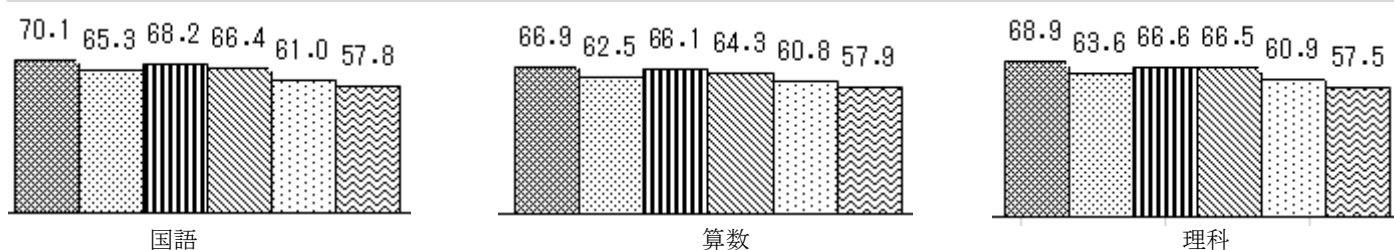
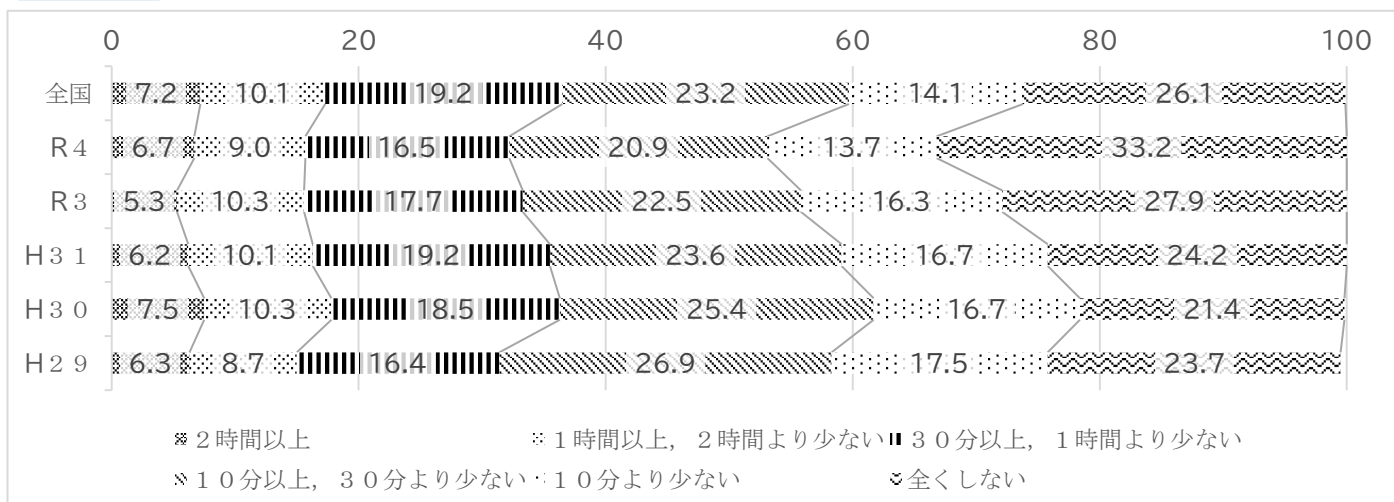
中学生



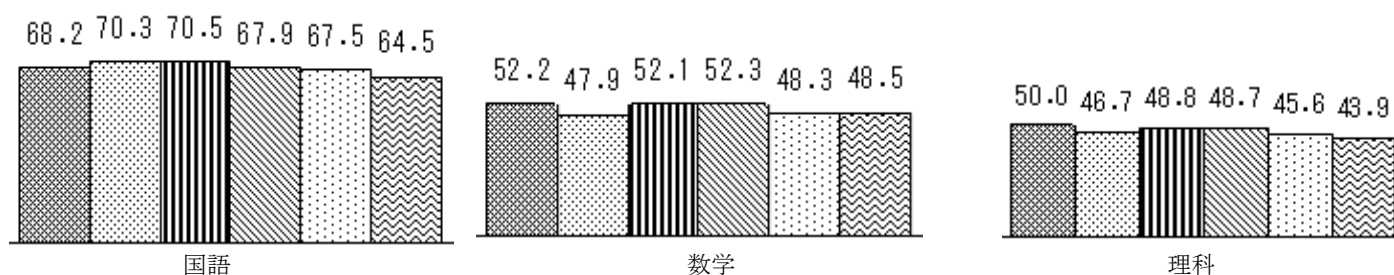
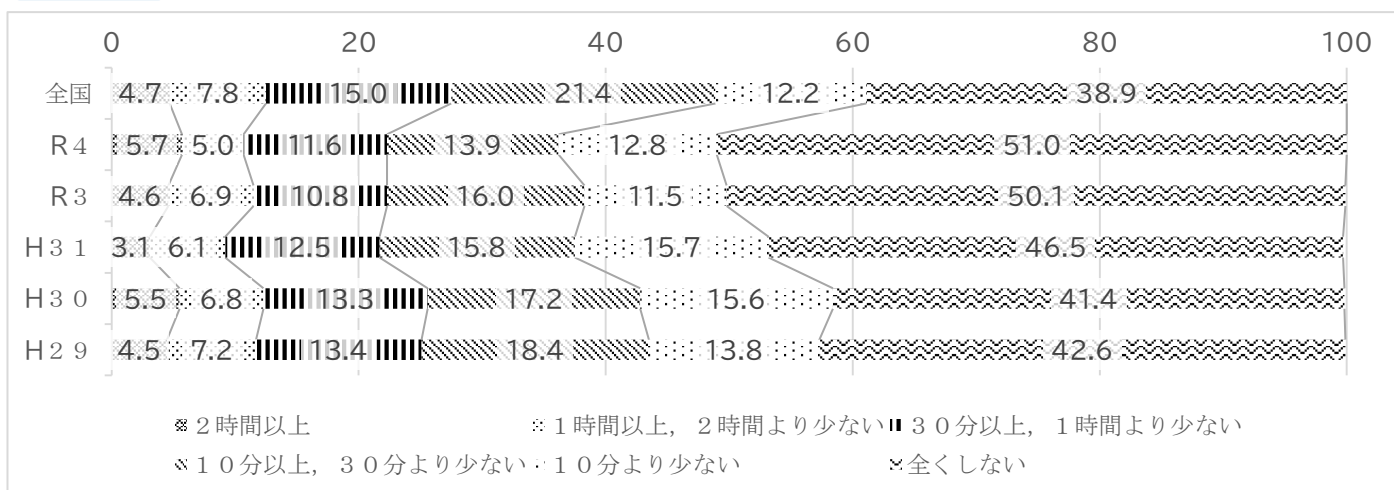
小学生は、「1時間以上」と回答した割合が46.3%とR3年度の50.7%を下回り、全国の56.5%も下回っている。中学生は、「1時間以上」と回答した割合が54.8%とR3年度の60.7%を下回り、全国の71.1%も下回っている。小中学生ともに、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりの勉強時間が長い児童生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】(23)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

小学生



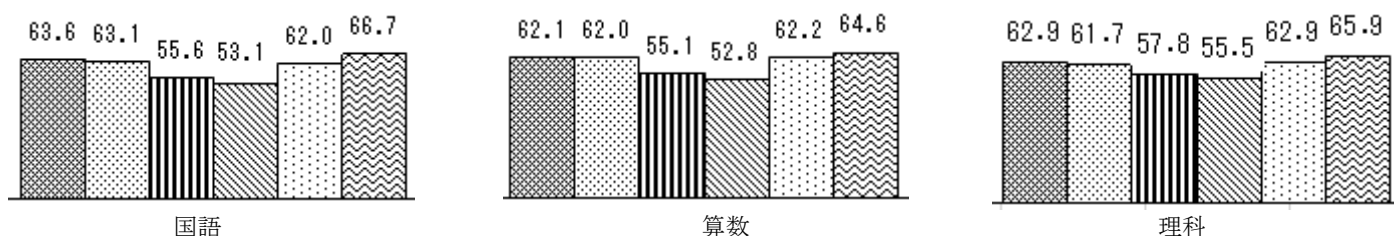
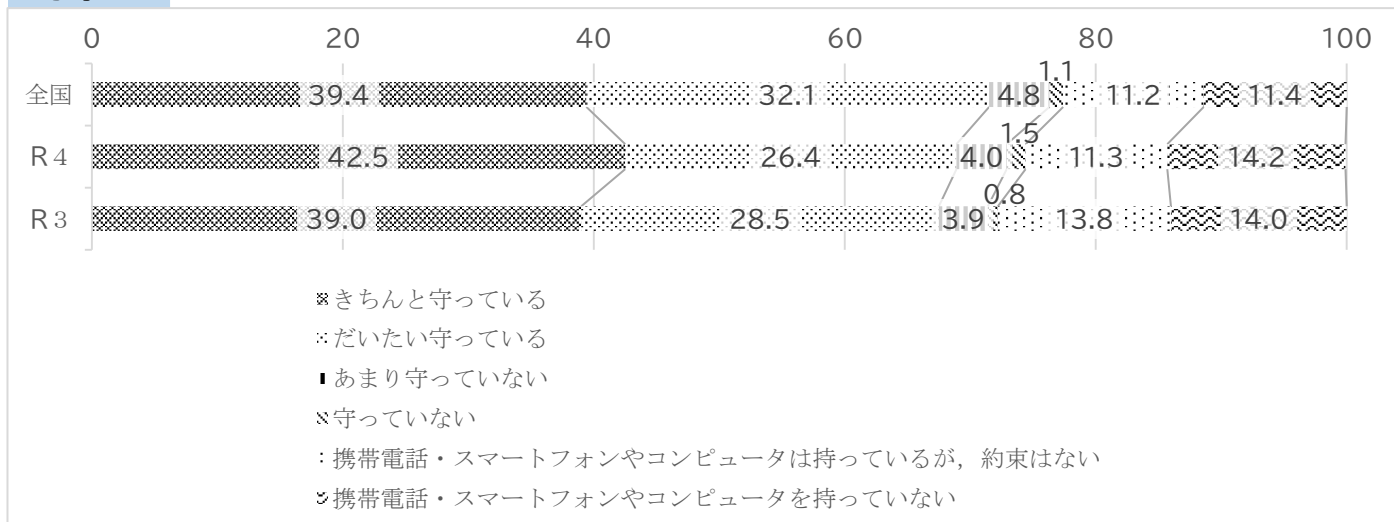
中学生



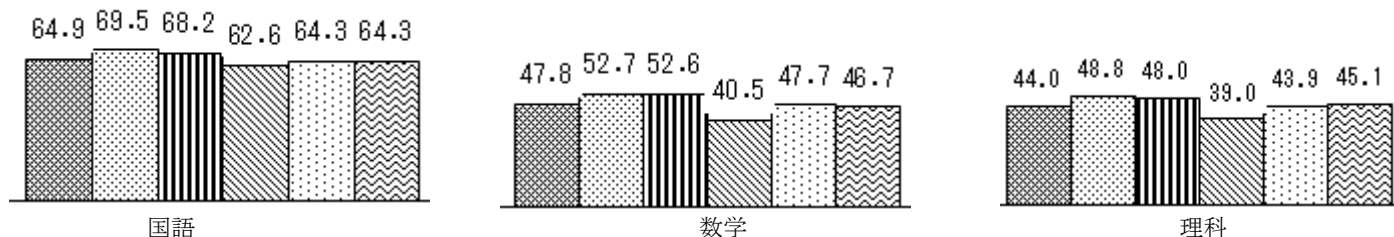
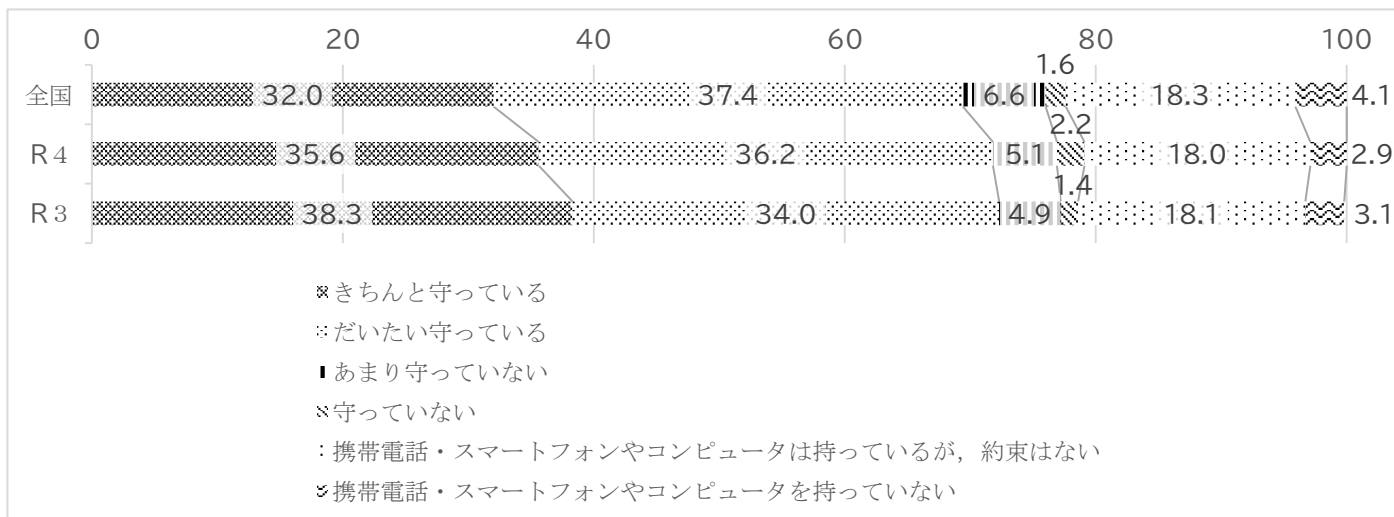
小学生は、「10分以上」と回答した割合が53.1%とR3年度の55.8%を下回り、全国の59.7%も下回っている。中学生は、「10分以上」と回答した割合が36.2%とR3年度の38.3%を下回り、全国の48.9%も下回っている。小中学生ともに「10分以上」と回答した割合が、平成29年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問紙】(4)携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

小学生



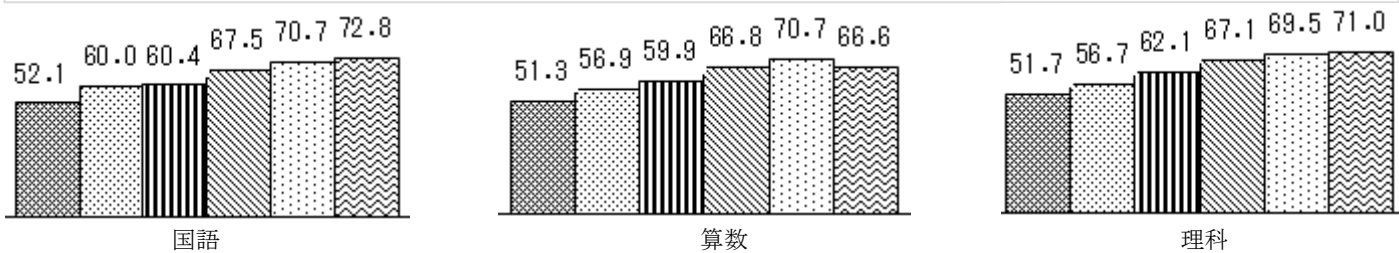
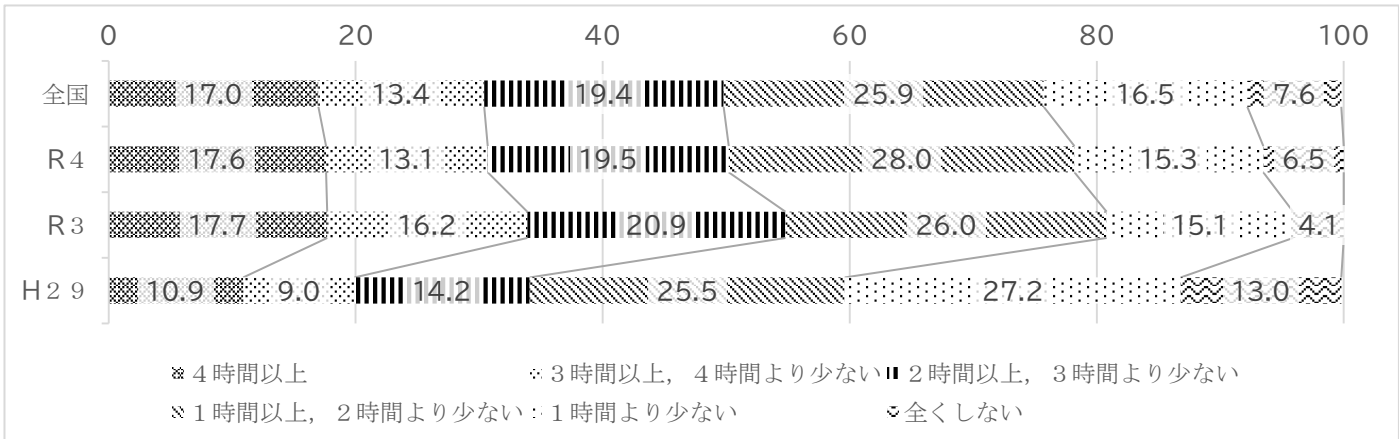
中学生



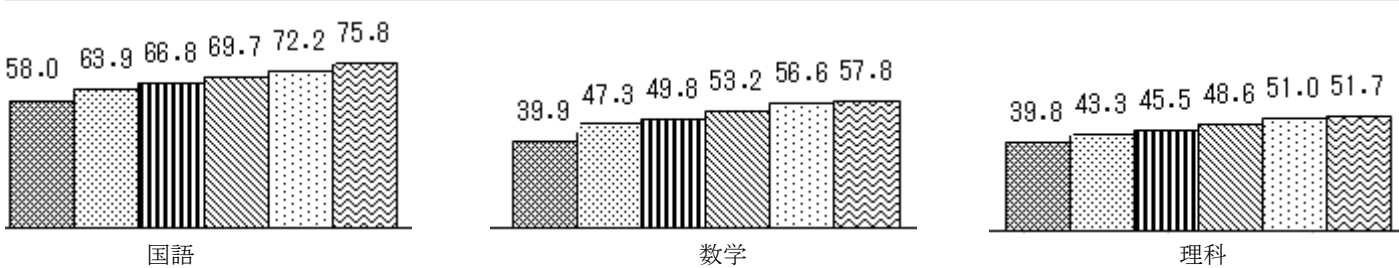
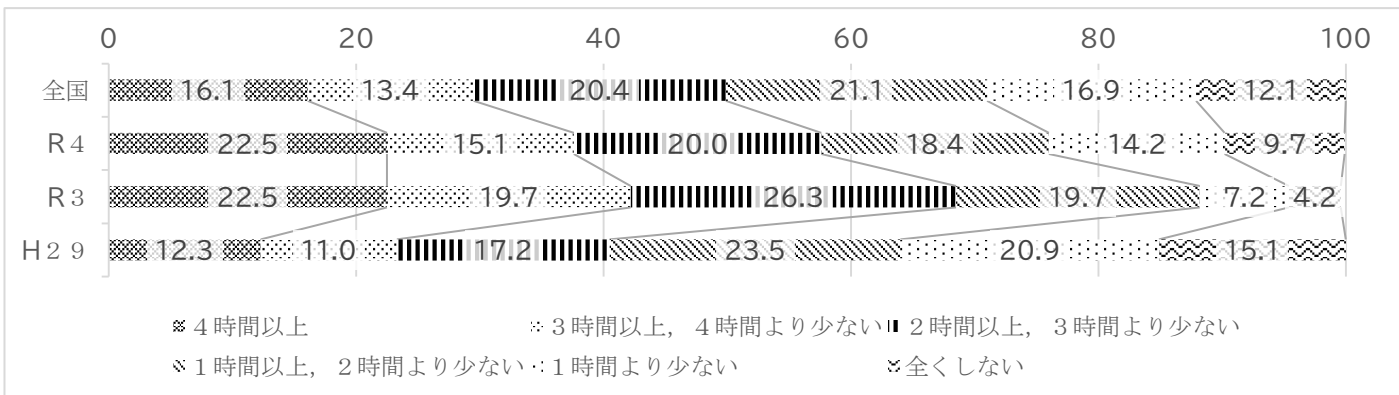
小学生は、肯定的回答割合が68.9%とR3年度の67.5%を上回っているが、全国の71.5%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が71.8%とR3年度の72.3%を下回っているが、全国の69.4%は上回っている。小中学生ともに、「守っていない」と回答した児童生徒は、教科の平均正答率が最も低くなっている。

【児童生徒質問紙】(5) 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

小学生



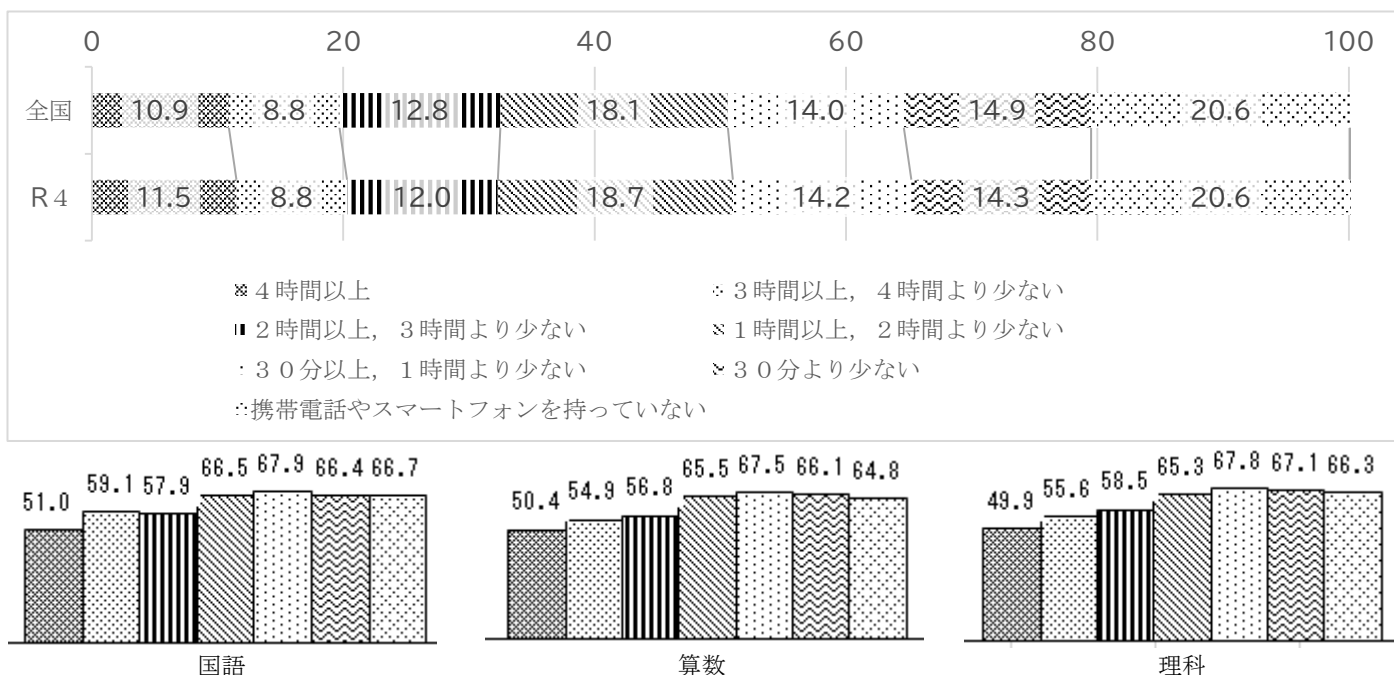
中学生



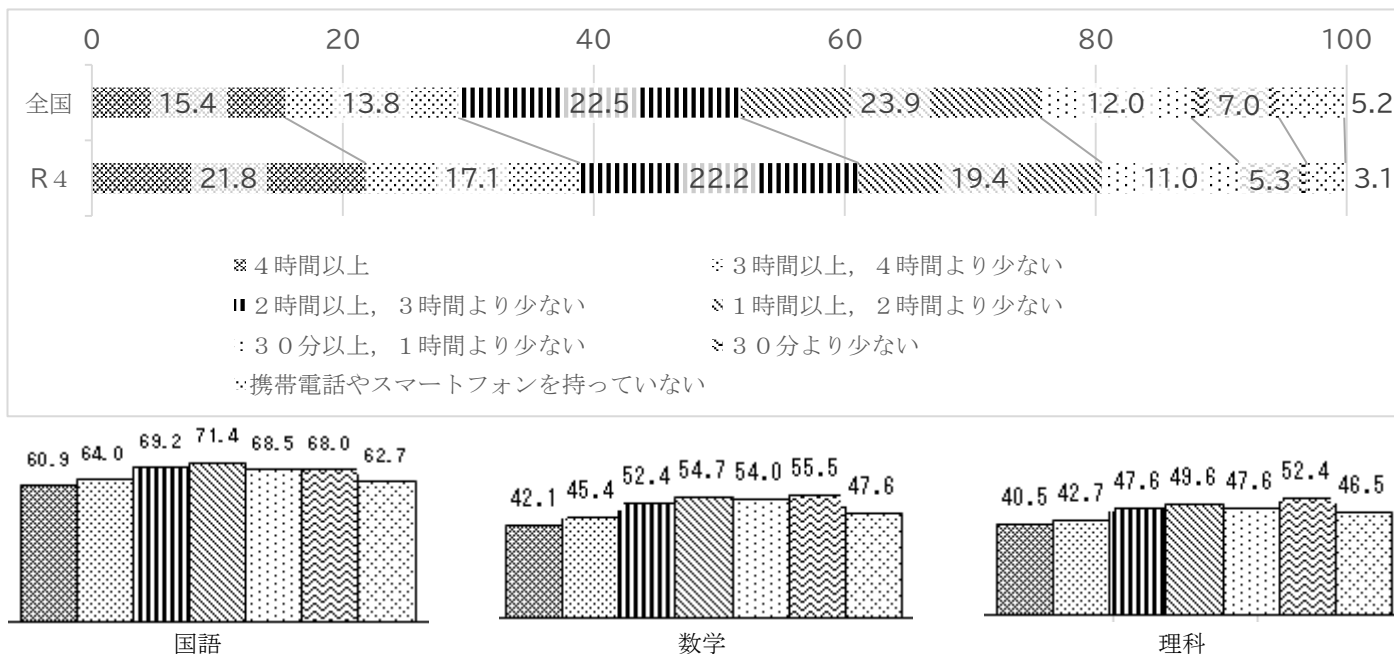
小学生は、「3時間以上」と回答した割合が30.7%とR3年度の33.9%を下回っているが、全国の30.4%は上回っている。中学生は、「3時間以上」と回答した割合が37.6%とR3年度の42.2%を下回っているが、全国の29.5%は上回っている。小中学生ともに普段、1日当たりのテレビゲームをする時間が短い児童生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】(6) 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)

小学生



中学生

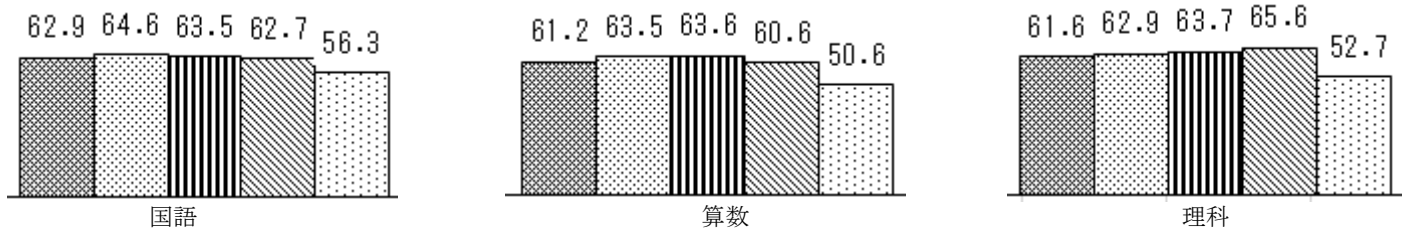
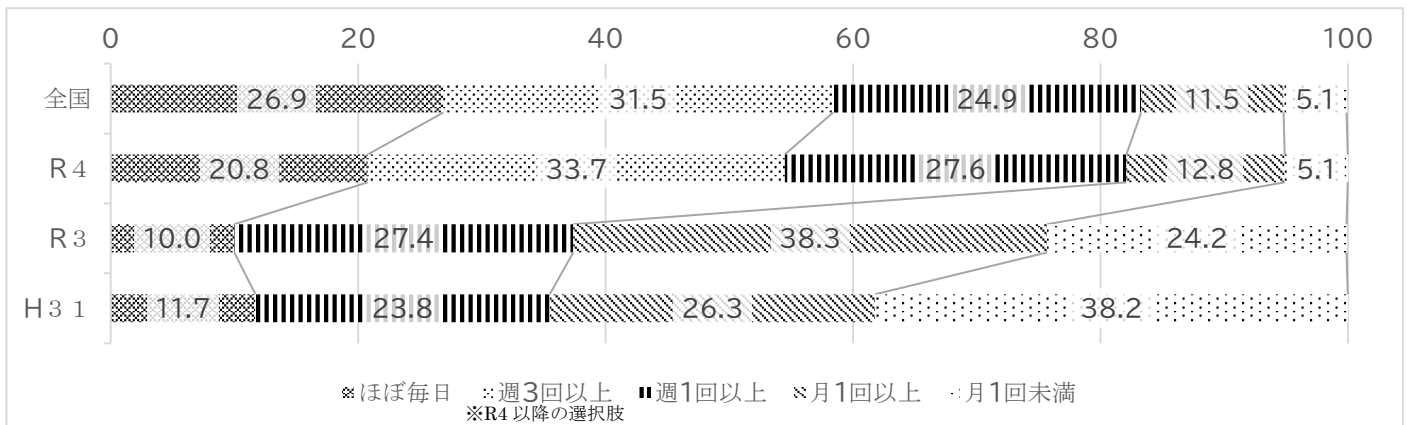


小学生は、「3時間以上」と回答した割合が20.3%と全国の19.7%を上回っている。中学生は、「3時間以上」と回答した割合が38.9%と全国の29.2%を上回っている。小中学生ともに、「4時間以上」と回答した児童生徒は、教科の平均正答率が最も低くなっている。

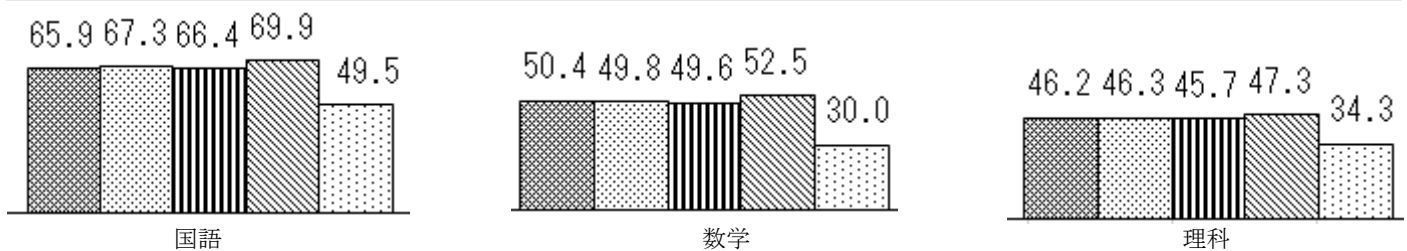
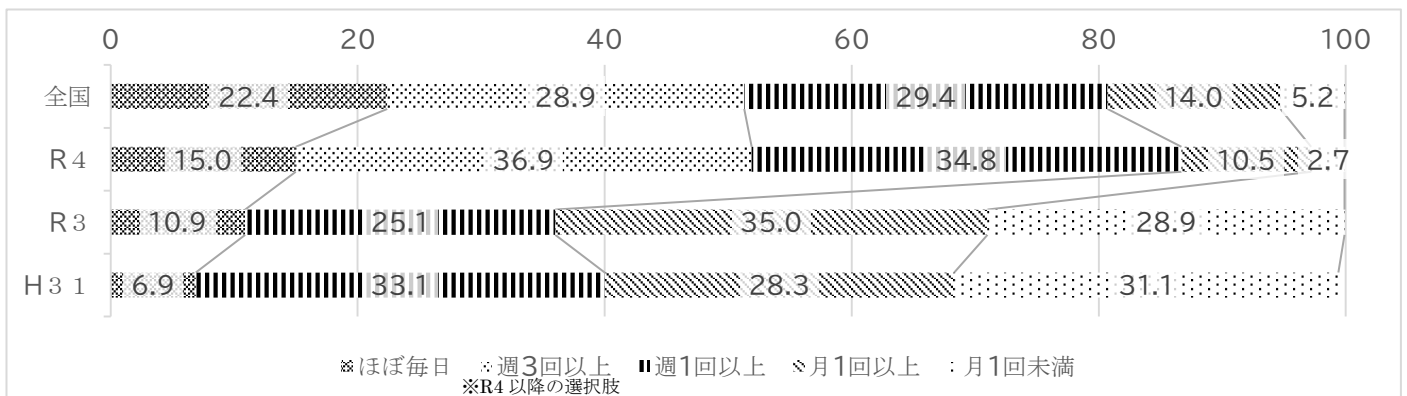
(4)ICT を活用した学習状況

【児童生徒質問紙】(32)5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

小学生



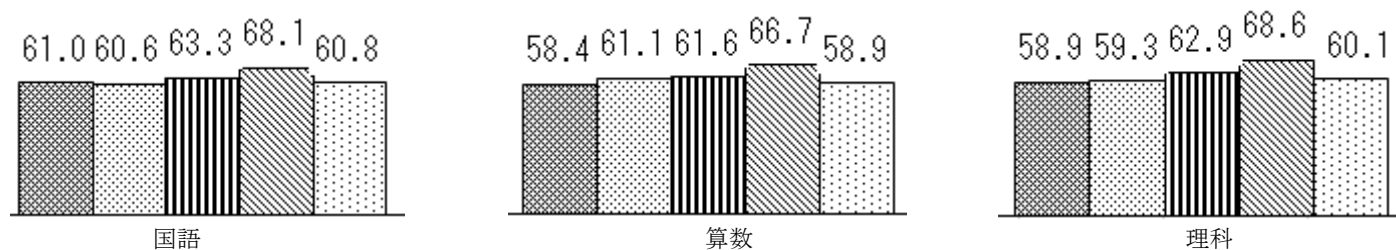
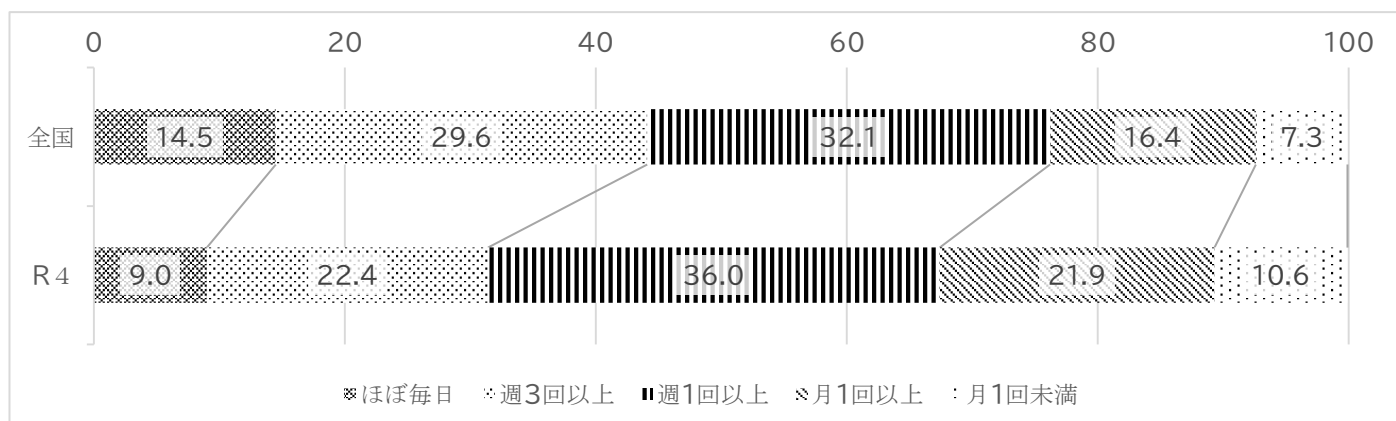
中学生



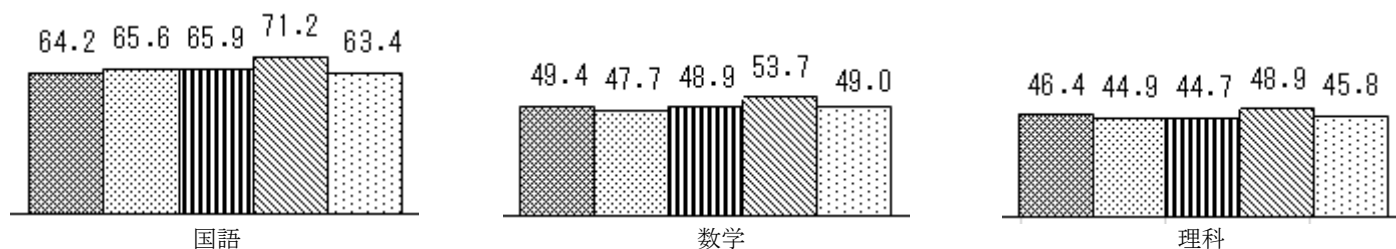
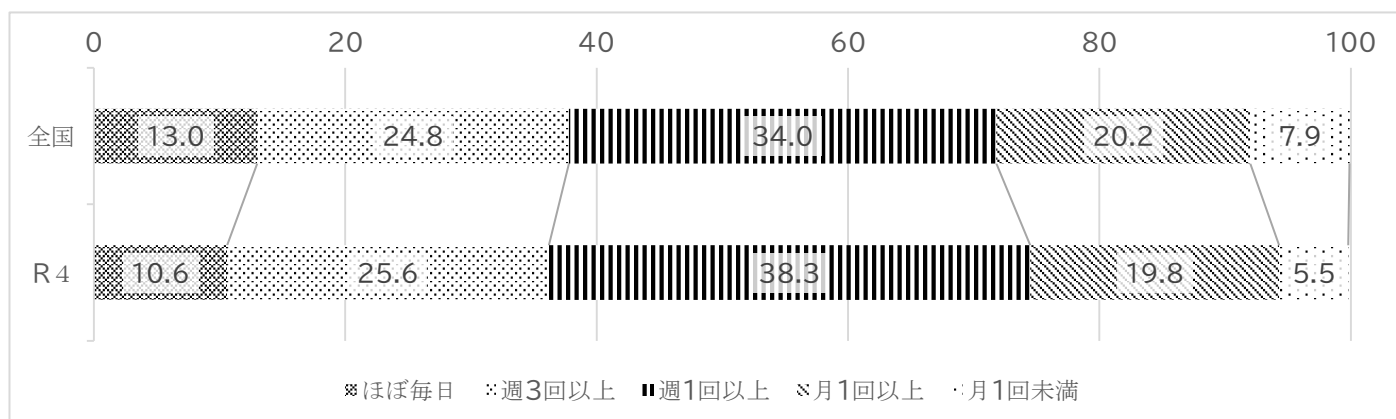
小学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が82.1%とR3年度の75.7%を上回っているが、全国の83.3%は下回っている。中学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が86.7%とR3年度の71.0%を上回り、全国の80.7%も上回っている。小中学生ともに、R3年度から大きくICT機器の使用が進んでいる。

【児童生徒質問紙】(33)学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)

小学生



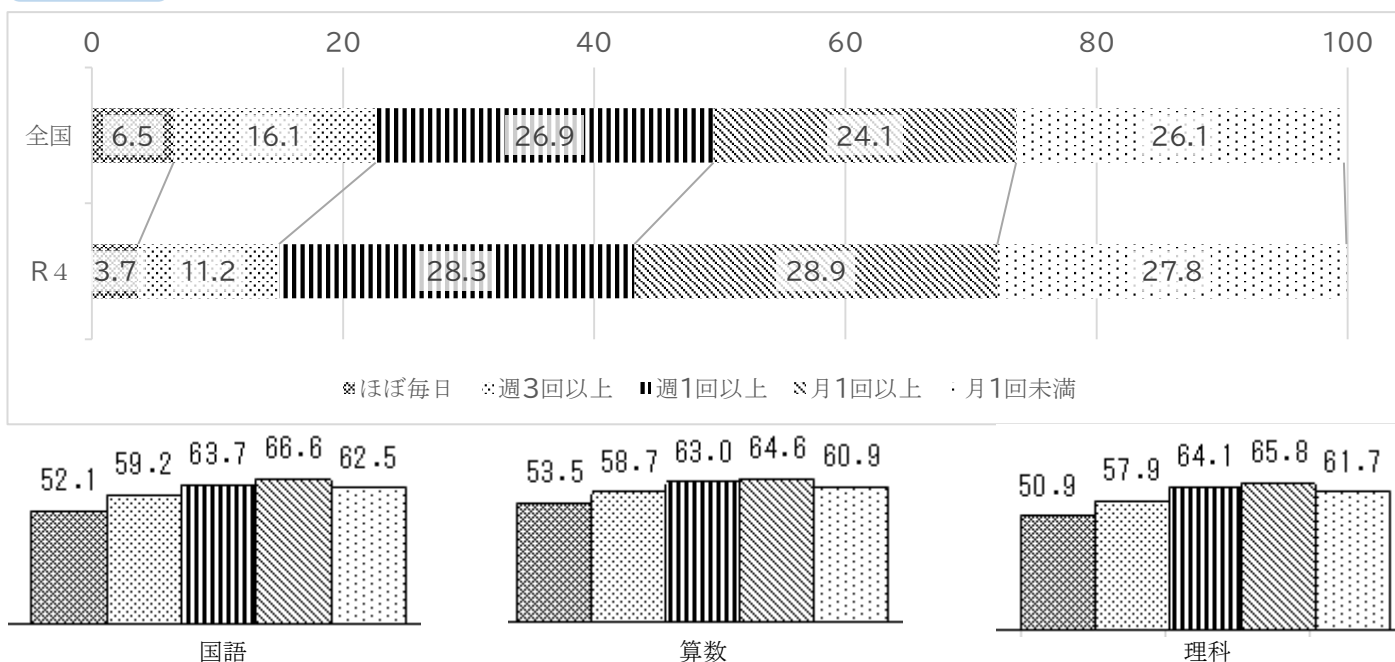
中学生



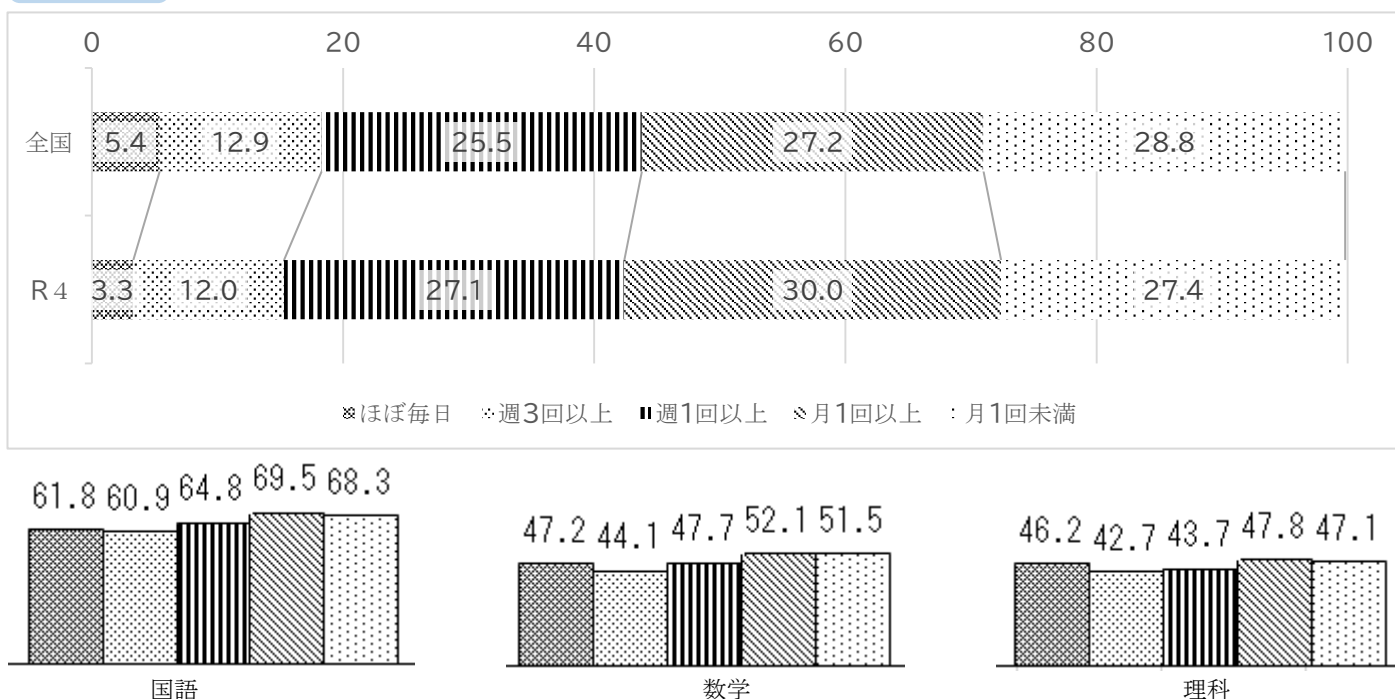
小学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が67.4%と全国の76.2%を下回っている。中学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が74.5%と全国の71.8%を上回っている。

【児童生徒質問紙】(34)学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか

小学生



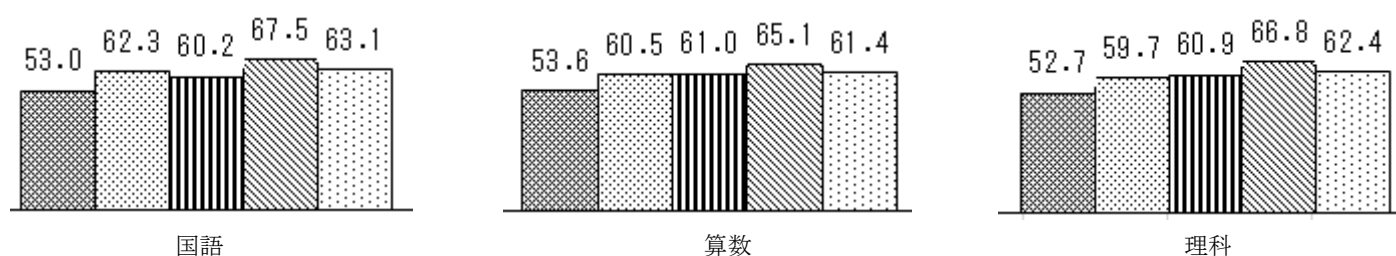
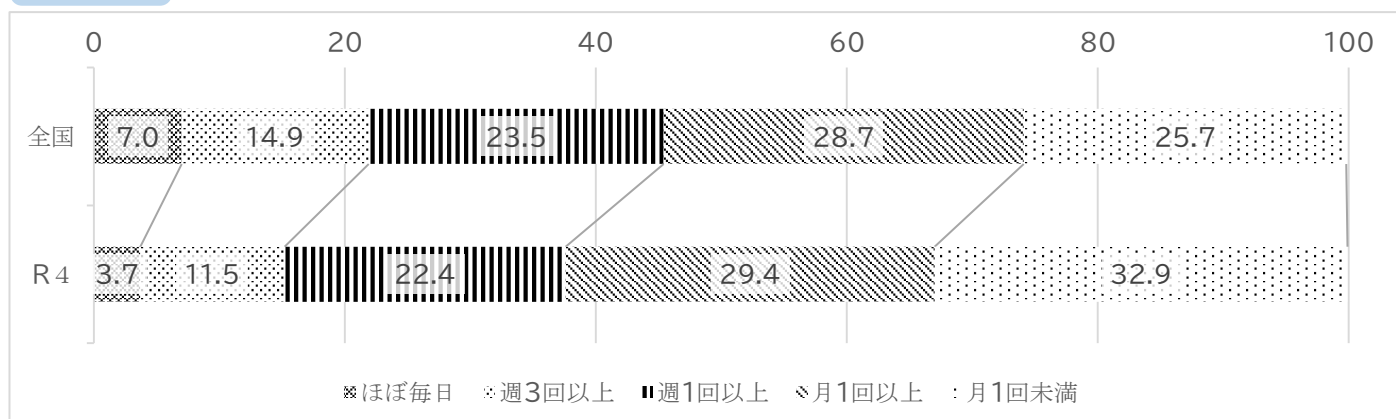
中学生



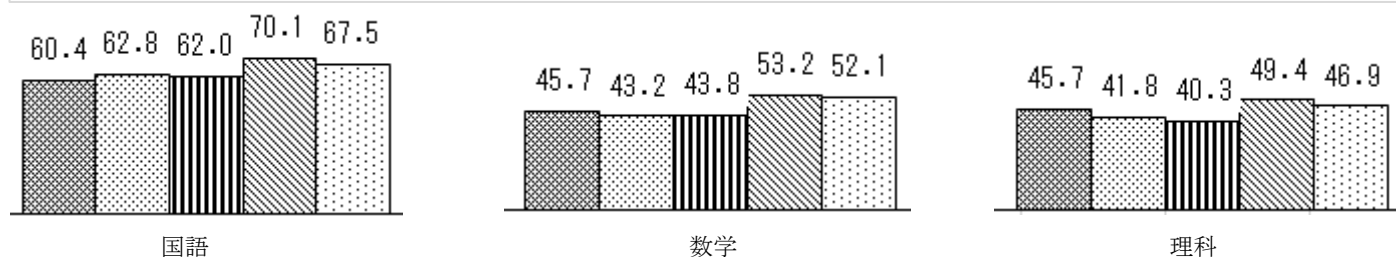
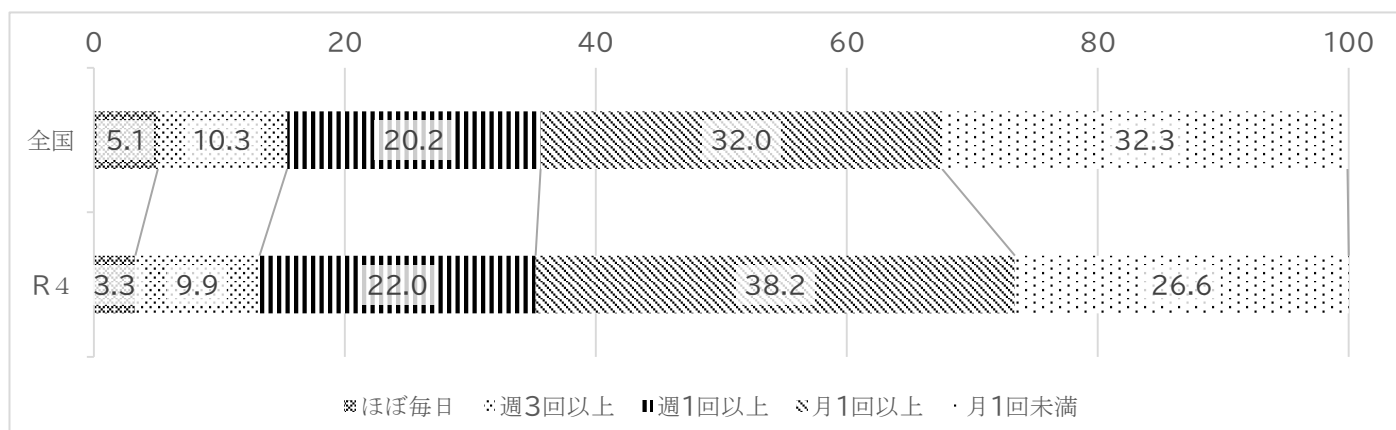
小学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が43.2%と全国の49.5%を下回っている。中学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が42.4%と全国の43.8%を下回っている。

【児童生徒質問紙】(35)学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか

小学生



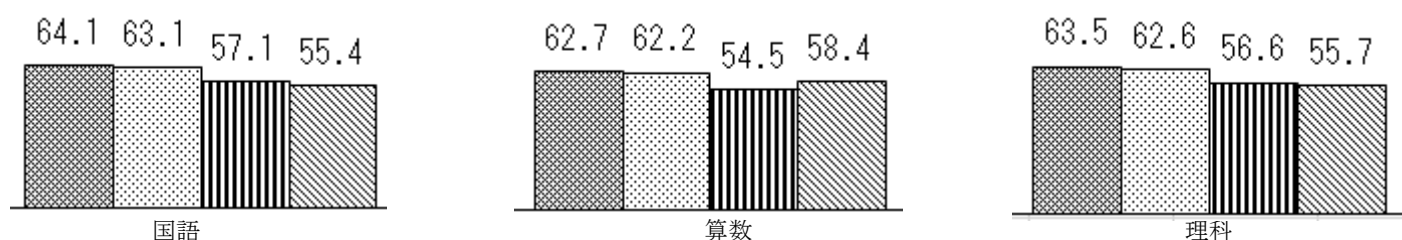
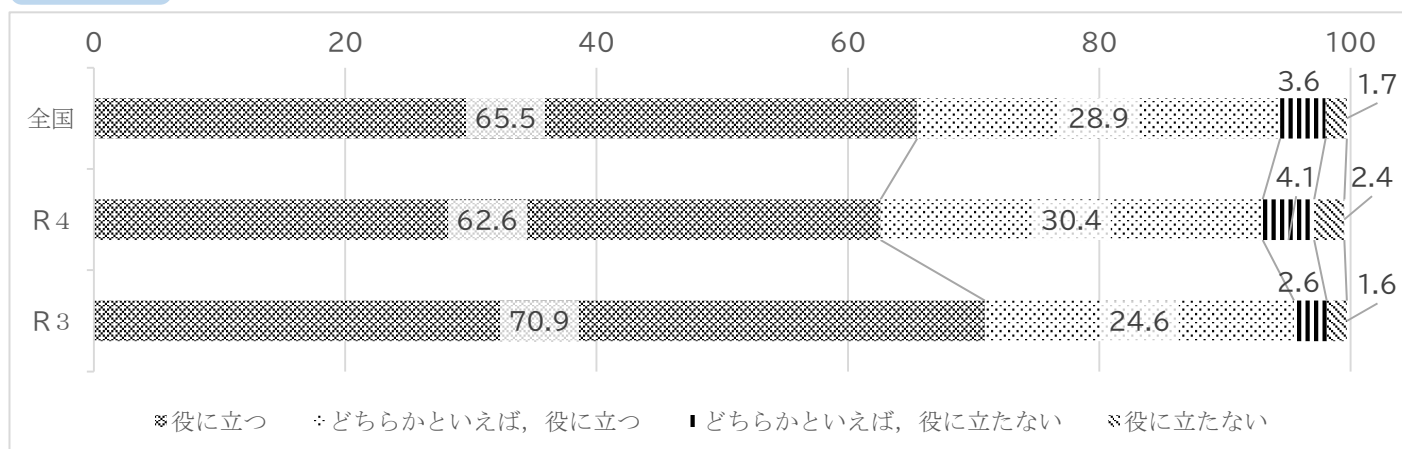
中学生



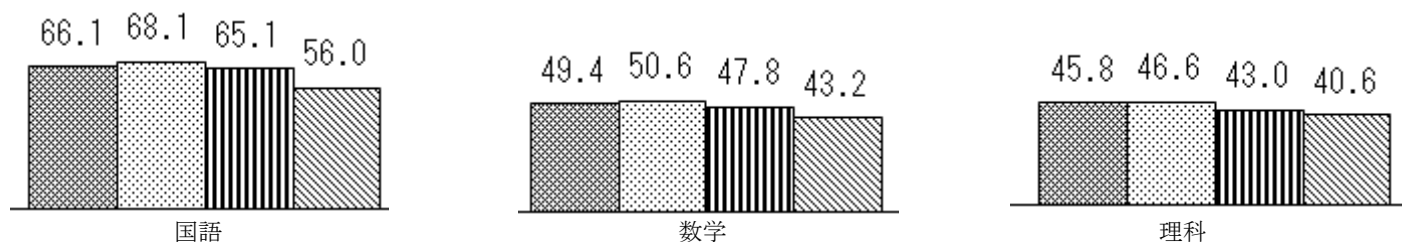
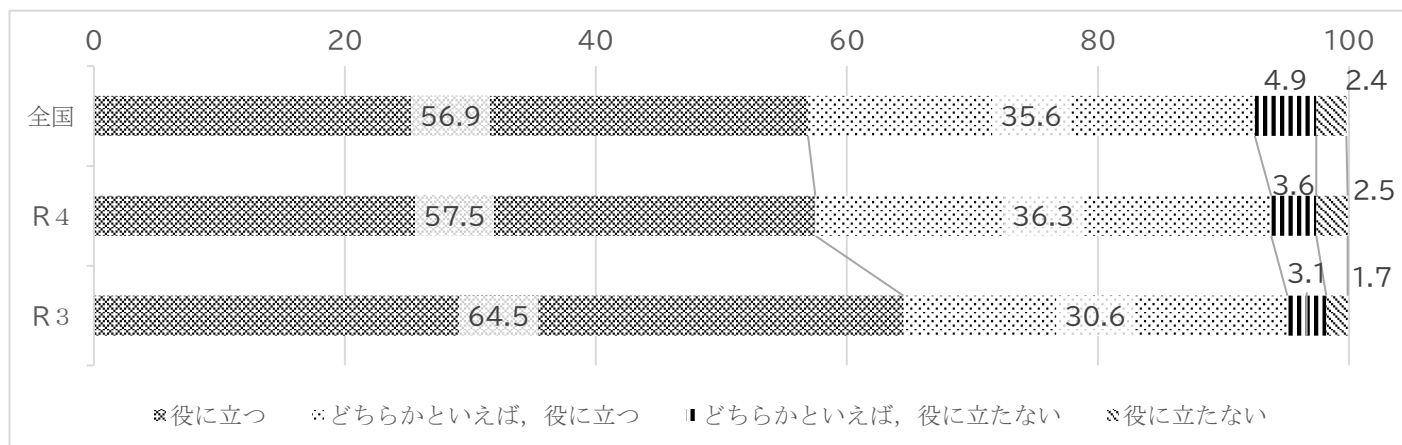
小学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が37.6%と全国の45.4%を下回っている。中学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が35.2%と全国の35.6%を下回っている。

【児童生徒質問紙】(36)学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

小学生



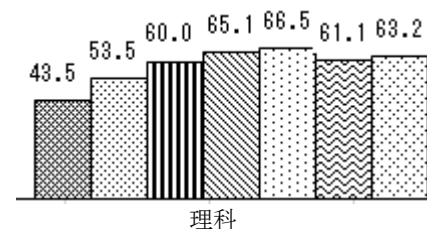
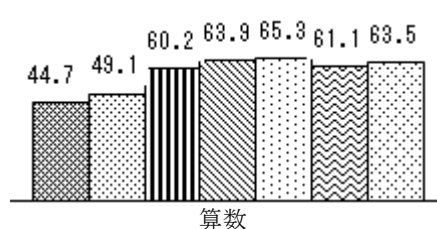
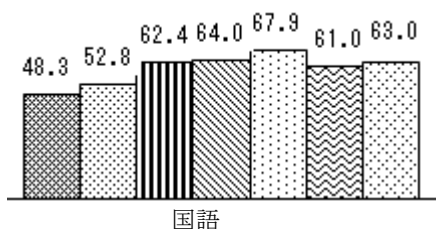
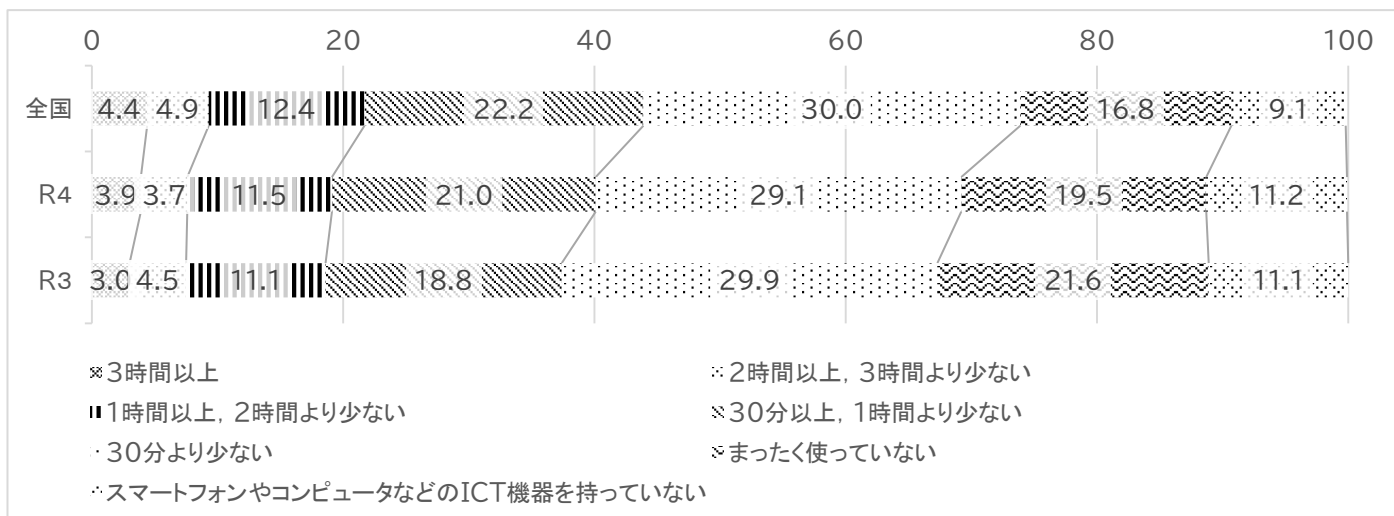
中学生



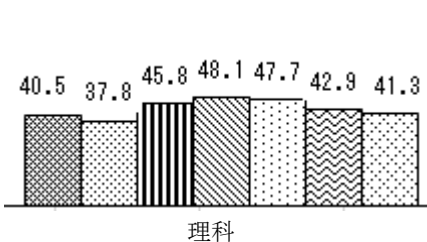
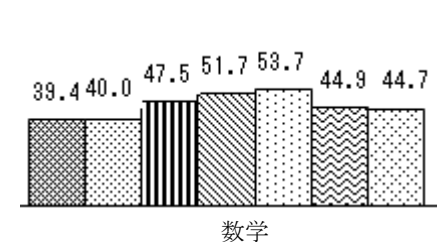
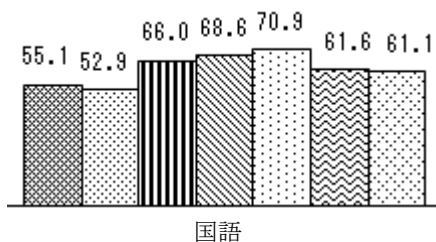
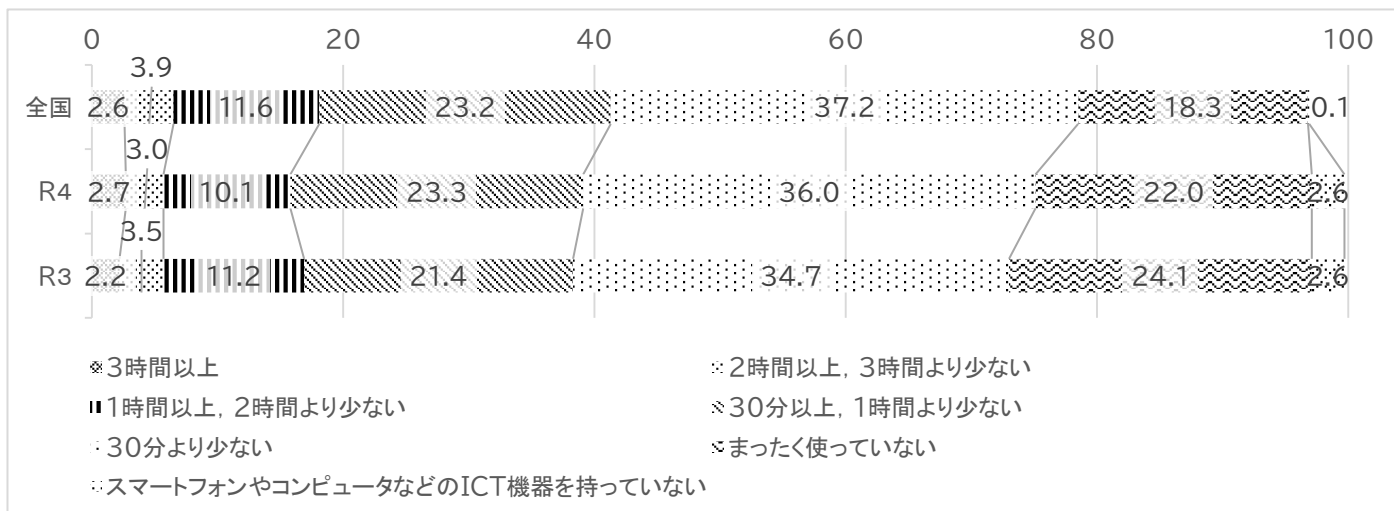
小学生は、肯定的回答割合が93.0%とR3年度の95.5%を下回り、全国の94.4%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が93.8%とR3年度の95.1%を下回っているが、全国の92.5%は上回っている。

【児童生徒質問紙】(37) 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を, 勉強のために使っていますか

小学生



中学生



小学生は、「まったく使っていない」と回答した割合が19.5%とR3年度の21.6%を下回っているが、全国の16.8%は上回っている。中学生は、「まったく使っていない」と回答した割合が22%とR3年度の24.1%を下回っているが、全国の18.3%を上回っている。

8 まとめ

1 【教科に関する調査】の結果より

本年度は、小学校の国語において特に課題が見られる結果であった。中でも、「読むこと」の領域において、全国との差が最も開いており、これは中学校の国語においても同様である。

この課題を克服するため、教育指導課では、小学校段階における読む力や書く力を基本から積み上げながら育むための学習者用ワークシートとして、「読む・書くワークシート」を作成した。各校においては、「読む・書くワークシート」を活用するなどしながら、確かな学力の基盤である言語能力、特に読解力の育成について指導の充実を図っていく。

2 【児童生徒質問紙調査】【学校質問紙調査】の結果より

(1) 平均正答率との相関関係について

家庭学習、スクリーンタイムに関する取組状況についての児童生徒質問紙 No. 20～No. 22, No. 4～No. 6において、全国と比べて課題が見られる。これらの質問は、「家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある」など、教科の平均正答率とも相関関係がある。家庭と協力しながら、家庭学習、スクリーンタイムについて改善を図っていく必要がある。

(2) 学習の定着に課題が見られる児童生徒を意識した授業改善について

中学校の数学において、生徒質問紙 No. 数1「言葉や数、式を使って説明する問題で、最後まで解答を書こうと努力すること」の肯定的回答が54.8%と低く課題であった。これは、他教科での同様の質問における肯定的回答の割合と比較しても低く、【教科に関する調査】における無解答率も高い傾向にある。

中学校の数学、さらにはその積み上げ段階である小学校の算数においては、特に、学習の定着に課題が見られる児童生徒を意識した授業改善に取り組んでいかなければならない。

(3) 学習に対する関心・意欲や自己肯定感等の非認知能力の涵養に繋がる授業改善について

各教科の「学習に対する関心・意欲・態度」等に関する児童生徒質問紙における肯定的回答の割合は、中学校の国語以外、全国と比べ低い傾向にある。また、自己肯定感、挑戦心、達成感等に関する状況についての児童生徒質問紙 No. 7, No. 9, No. 15, No. 16において、肯定的回答の割合が全国と比べて低い。さらに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況についての児童生徒質問紙 No. 38, No. 43においても、肯定的回答の割合が全国と比べて低い。これらは、別々の課題ではなく、相互に関連するものである。

学習の定着に課題が見られる児童生徒を意識した授業改善が進み、児童生徒の学習に対する関心・意欲が高まれば、自己肯定感や挑戦心も高まっていくことが期待できる。しかし、【児童生徒質問紙調査】と【学校質問紙調査】の結果に乖離している部分があり、教師は授業改善が進んでいると捉えているのに対し、児童生徒はそのように感じている割合が低い傾向にある。

そのため、授業づくりのための5つの視点である「授業力UP5★」を活用しながら、児童生徒の学習に対する関心・意欲や自己肯定感等の非認知能力を高められるような授業改善に取り組むこと、その成果について注意深く見取りながら検証を行い、授業改善のサイクルを回していくことが必要である。